

第 5 章 史料編

鷹山関連年表

鷹山関連事項	祇園祭関連事項
<p>応仁の乱以前 「鷹つかひ山」が後祭の巡行列に参加[文献1]</p>	<p>応仁元-文明9 (1467-1477) 応仁の乱により祇園祭が中止となる</p>
<p>明応9年(1500) 「たか山」「鷹山」が後祭の巡行列に参加[文献1]</p>	<p>明応9年(1500) 祇園祭が33年ぶりに復興、山鉦36基が出るに際して籤を取る</p>
	<p>天文2年(1533) 法華一揆により神事が中止されるが山鉦の巡行は行われる</p>
	<p>宝永5年(1708) 宝永の大火</p>
<p>寛保2年(1742) 日覆の屋根を付けて巡行か</p>	
<p>天明2年(1782) 山新調、屋根は前後に分かれる[文献8・9・11]</p>	
<p>天明8年(1788) 天明の大火で罹災 正月「大火車木柄等焼失」[文献17] 6月昇山にて巡行[文献17]</p>	<p>天明8年(1788) 大火により多くの山鉦が罹災、以後20年ほどかけて順次山鉦が復興</p>
	<p>寛政3年(1791) 北観音山が巡行に復帰</p>
	<p>寛政6年(1794) 岩戸山が大屋根で巡行に復帰</p>
	<p>寛政8年(1796) 南観音山が巡行に復帰</p>
	<p>寛政9年(1797) 北観音山が大屋根で巡行 (但し絹張青色障子天井)</p>
<p>寛政10年(1798) 曳山に復する[文献14]、前後屋根の形式を踏襲[文献15]</p>	
<p>文化7年(1810) 屋根木地新調[文献17]、前後屋根の形式を廃し大屋根に[文献23]</p>	

鷹山関連事項	祇園祭関連事項
文政3年(1820) 屋根塗一式・金物類・二番水引・欄縁総角・欄縁房掛を新調[文献18・19] 「金箔置前後草木花極彩色、屋根垂木裏垂木間金箔置、源章画」[文献17]	
文政9年(1826) 大風雨により罹災[文献20]	
文政10年(1827) 休み山に	
	文政11年(1828) 北観音山が本格的な大屋根建設、それに伴い胴組・石持新調 天保5-8年(1834-1837) 横山華山「祇園祭礼図巻」[絵画17]を描く 嘉永元年(1848) 冷泉為恭「祇園祭礼図巻」[絵画19]を描く
元治元年(1864) 元治の大火で罹災	元治元年(1864) 元治の大火で多くの山鉾が罹災
	明治10年(1877) 太陽暦の採用により祭日が7月17日と24日に改められる 明治12年(1879) 全ての山鉾が御所に参じる
明治14年(1881) 会所飾用の衣装などを新調	
	大正12年(1923) 山鉾連合会が組織される
	昭和18年(1943) アジア太平洋戦争のために以後4年間山鉾の巡行が休止される
	昭和25年(1950) 後祭(24日)の巡行復活
	昭和27年(1952) 菊水鉾が仮鉾で巡行復帰
	昭和31年(1956) 前祭が寺町通を北上し、御池通を西進する巡行路に変更される

鷹山関連事項	祇園祭関連事項
	<p>昭和 36 年（1961） 前祭が河原町通を北上し、御池通を西進する巡行路に変更される</p> <p>昭和 37 年（1962） 「祇園祭山鉦」29 基が国の重要民俗資料に指定される（のち重要有形民俗文化財に名称変更）</p> <p>昭和 41 年（1966） 24 日の後祭巡行が 17 日の前祭巡行に合同される</p> <p>昭和 54 年（1979） 「京都祇園祭の山鉦行事」が国の重要無形民俗文化財に指定される 綾傘鉦が再興、巡行に加わる</p> <p>昭和 56 年（1981） 螭螂山が再興、巡行に加わる</p> <p>昭和 63 年（1988） 四条傘鉦の「棒振りばやし」が再興、巡行に加わる</p>
<p>平成 20 年（2008） 「鷹山装飾品」（13 点）が京都市有形民俗文化財に指定される</p>	
	<p>平成 21 年（2009） 「京都祇園祭の山鉦行事」がユネスコ無形文化遺産に登録される</p>
<p>平成 24 年（2012） 鷹山の歴史と未来を語る会設立</p>	
<p>平成 26 年（2014） 囃子方設立</p>	<p>平成 26 年（2014） 後祭巡行が復活 大船鉦が再興、巡行に加わる</p>
<p>平成 27 年（2015） 一般財団法人鷹山保存会設立</p>	
<p>平成 28 年（2016） 公益財団法人鷹山保存会発足</p>	<p>平成 28 年（2016） 「京都祇園祭の山鉦行事」を含む全国 33 件が「山・鉦・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に登録される</p>

（京都市文化財保護課）

1 絵画史料

(1) 鷹山に関する絵画史料一覧表

(2) 鷹山に関する絵画史料

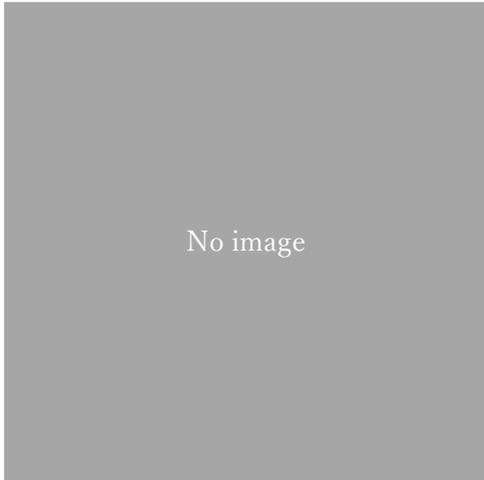
(1) 鷹山に関する絵画史料一覧表

No.	名称(筆者)	員数	材質技法	制作年代	所蔵	備考
1	「日吉山王祇園祭礼図屏風」	6曲1双	紙本着色	室町時代(16世紀)	サントリー美術館	片隻に祇園祭、片隻に日吉山王祭礼をそれぞれ描く
2	「祇園祭礼図屏風」	6曲1双	紙本金地著色	寛永(1624-44)前半	京博	
3	「祇園祭礼図屏風」 (海北友雪)	6曲1隻	紙本着色	明暦年間(1655-58)	(公財)八幡山保存会	後祭を描く隻のみ現存、京都市指定文化財
4	『祇園御本地』	4巻3冊	版本	承応・明暦 (1652-58)頃	京大図、天理図など	
5	「祇園祭礼図巻」	2巻	絹本着色	17世紀後半	永青文庫	
6	「祇園祭絵」	1巻	紙本着色	17世紀後半	神宮徴古館	後祭を描く巻のみ現存
7	「祇園祭礼図巻」	1巻	紙本着色	17世紀後半	國學院博	後祭を描く巻のみ現存
8	「祇園祭礼図巻」	2巻	紙本着色	17世紀後半	個人	
9	「祇園祭礼図屏風」	6曲1双	紙本着色	17世紀後半	個人	
10	「祇園祭礼図屏風」	6曲1双	紙本着色	17世紀後半	個人	
11	『宝永花洛細見図』	15冊	版本	宝永元年(1704)	京大図(谷村文庫)、 歴彩館など	
12	『祇園祭会図偈』	1冊	版本	正徳6年(1716)	刈谷図、個人	
13	「祇園祭礼図屏風」	6曲1双	紙本金地著色	寛保2年(1742)頃	溝咋神社(茨木市)	
14	『祇園会細記』	3冊	版本	宝暦7年(1757)	歴彩館など	
15	『諸国図会年中行事大成』 (速水春暁斎(恒章))	6冊	版本	文化3年(1806)	東博、早大図など	
16	「鷹山御神体人形図」 (信直敬)	1幅	紙本淡彩	天保2年(1831)	(公財)鷹山保存会	
17	「祇園祭礼図巻」 (横山華山)	1巻	紙本着色	天保5-8年(1834-37)	個人	
18	『祇園会御祭礼 山鉦之由来』 (有楽斎長秀)	1冊	版本	天保7年(1836)	個人	
19	「祇園祭礼図巻」 (冷泉為恭)	1巻	絹本着色	嘉永元年(1848)	國學院博	
20	「京都祇園祭礼鉦之図」 (五雲亭貞秀)	3枚続	大判錦絵	弘化4-嘉永5(1847-52)	歴彩館	

凡例

- 一、「作品名称」欄の名称は絵画作品を「」、書籍類を『』で記し、筆者が判明する場合は()内に記す。なお、絵画のうち、卷子本形式の作品名称に関しては、特記するもの以外、「図巻」で統一した。
- 一、書籍について、所蔵者が複数に及ぶ場合は、「所蔵」欄にその旨を記載している。「所蔵」欄の略称は掲出順に次のとおりである。京博(京都国立博物館)、京大図(京都大学附属図書館)、天理図(天理大学附属天理図書館)、國學院博(國學院大學博物館)、歴彩館(京都府立京都学・歴彩館)、刈谷図(刈谷市中央図書館)、東博(東京国立博物館)、早大図(早稲田大学附属図書館)
- 一、本表は京都市文化財保護課 安井雅恵・山下絵美が作成した。

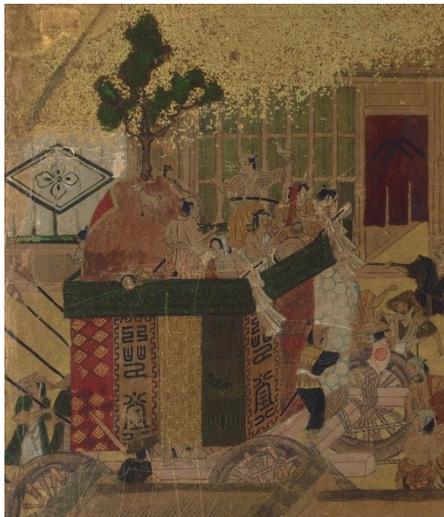
(2) 鷹山に関する絵画史料



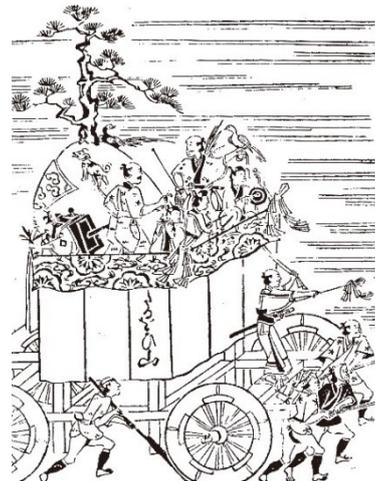
1 「日吉山王祇園祭礼図屏風」(サントリー美術館)



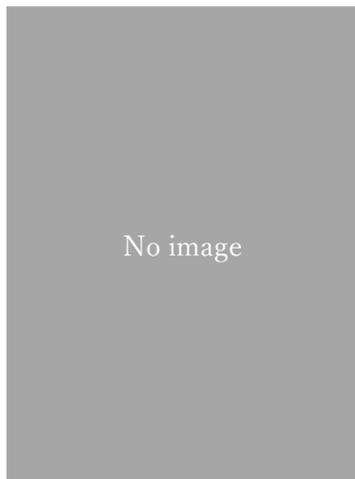
2 「祇園祭礼図屏風」(京都国立博物館)



3 「祇園祭礼図屏風」(八幡山保存会)



4 『祇園御本地』(京大図)



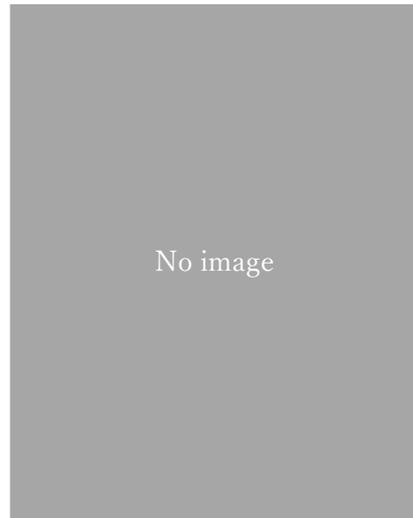
5 「祇園祭礼図巻」(永青文庫)



6 「祇園祭絵」(神宮徴古館)



7 「祇園祭礼図巻」(國學院大學博物館)



10 「祇園祭礼図屏風」(細見美術館)



11 『宝永花洛細見図』(京大図)



12 『祇園祭会図偈』(個人)



13 「祇園祭礼図屏風」(溝咋神社)



14 『祇園会細記』(京都市歴史資料館)



15『諸国図会年中行事大成』(個人、立命館大学ア
ート・リサーチセンター提供、Ebi0469-6)



17「祇園祭礼図巻」(個人)



16「鷹山御神体人形図」(鷹山保存会)



18『祇園会御祭礼 山鉾之由来』(個人)



19「祇園祭礼図巻」(國學院大學博物館)

凡例

- 一、本図版集は「鷹山に関する絵画史料一覧表」から主要な作品を抜粋して掲載したものである。
- 一、図版のキャプションに記した番号は、「鷹山に関する絵画史料一覧表」の通し番号に対応している。
- 一、作品名称の後ろの()内には所蔵者を記した。版本の場合は、掲載図版本の所蔵者を記した。
- 一、掲載史料は、いずれも鷹山の描写を含む部分図である。

2 文献史料

2	文献史料.....	119
(1)	鷹山に関する文献史料一覧表.....	120
(2)	鷹山に関する文献史料.....	180
(3)	御神体人形意匠対照表.....	182
(4)	懸装品意匠対照表.....	184

(1) 鷹山に関する文献史料一覧表

No.	史料名	史料群名	番号	時代		形態	員数	差出人 ／作成者	宛先	所蔵	掲載頁
				和暦	西暦						
1	「祇園会山鉦事」	八坂神社	—	永禄3年	1560	竖帳	1冊	—	—	八坂神社	(1) 179
2	『祇園祭会図巻』	—	—	正徳6年	1716	版本	1冊	—	—	刈谷園、個人	(1) 179
3	「鷹山かざり物覚」	三条衣棚	館古531 -7975	宝暦6年6月27日	1756	状	1通	衣棚北町	—	歴彩館	(1) 179
4	『祇園会細記』	—	—	宝暦7年	1757	版本	3冊	—	—	歴彩館ほか	(2) 178
5	「預物・蔵入置物留帳」	三条衣棚	館古531 -8097	宝暦8年6月	1758	横帳	1冊	—	—	歴彩館	(3) 177
6	「見送り縫寄附帳」	三条衣棚	館古531 -8098	明和3年6月吉日	1766	竖帳	1冊	鷹山町	—	歴彩館	(6) 174
7	「車新調代銀ニツ割証文」	三条衣棚	館古531 -7982	安永5年6月	1776	状	1通	北・南袋屋町	鷹山町	歴彩館	(7) 173
8	「鷹山家台修復」	三条衣棚	館古531 -8102	天明元年6月吉日	1781	横帳	1冊	—	—	歴彩館	(8) 172
9	「祇園会入払帳」	三条衣棚	館古531 -8096	元文4年6月吉日	1739	横帳	1冊	鷹山町	—	歴彩館	(36) 144
10	「鷹山人形・飾付一式覚」	三条衣棚	館古531 -8103	天明2年6月	1782	状	1通	衣棚北町	—	歴彩館	(37) 143
11	「鷹山人形・飾付一式覚」	三条衣棚	館古531 -8105	天明5年6月	1785	状	1通	衣棚北町	—	歴彩館	(37) 143
12	「鷹山飴付書上」	三条衣棚	館古531 -7995	寛政5年6月	1793	状	1通	衣棚北町 年寄治兵衛	—	歴彩館	(38) 142
13	『祇園会山鉦附品』	—	—	寛政5年	1793	竖帳	1冊	五十嵐源五	—	祇園祭山鉦連合 会（複写）	(39) 141
14	「口上覚」	三条衣棚	館古531 -8109	寛政10年3月	1798	状	1通	—	—	歴彩館	(39) 141
15	「山鉦飾之事」	三条衣棚	館古531 -8111	享和3年6月	1803	状	1通	三条通鷹山町	—	歴彩館	(40) 140
16	『増補 祇園御盃会細記 参』	—	—	文化11年	1814	版本	1冊	—	—	役行者山保存会	(40) 140
17	『祇園会山鉦装鈔』（十四日部）	—	—	文政元年	1818	横帳	1冊	服部敏夏	—	歴彩館	(41) 139
18	「鷹山屋根塗一式ほか取替届書案」	三条衣棚	館古531 -8002	文政3年5月	1820	状	1通	鷹山町月行事	雑色四名	歴彩館	(42) 138
19	「鷹山屋根塗一式ほか取替届書案」	三条衣棚	館古531 -8003	文政3年5月	1820	状	1通	鷹山町月行事	雑色四名	歴彩館	(43) 137
20	「鷹山破損ニ付諸方掛合」	三条衣棚	館古531 -8122	文政10年5月	1827	状	1通	三条通鷹山町 年寄七郎兵衛	—	歴彩館	(43) 137
21	『祇園山鉦書(人)』	六角町	—	文政10年	1827	竖帳	1冊	—	—	北観音山保存会	(44) 136
22	「鷹山御神体人形図」	—	—	天保2年	1831	掛幅	1幅	—	—	鷹山保存会	(44) 136
23	「鷹匠人形他一式覚」	三条衣棚	館古531 -8126	天保3年6月	1832	切紙	1通	鷹山	—	歴彩館	(47) 133
24	「鷹匠人形他一式覚」	三条衣棚	館古531 -8125	天保3年6月	1832	竖帳	1冊	鷹山	—	歴彩館	(48) 132
25	「祇園会神事当家式目」	三条衣棚	館古531 -8117	文化6年	1809	竖帳	1冊	—	—	歴彩館	(49) 131
26	「鷹山道具類預り覚帳」	三条衣棚	館古531 -8135	寅卯辰巳	—	横帳	1冊	—	—	歴彩館	(52) 128
27	「鷹山修復中神事省略願書」	三条衣棚	館古531 -8051	午5月	—	状	1通	鷹山町年寄	雑式四座御 衆中	歴彩館	(58) 122
28	「人形樽負殿ノ由来下書」	三条衣棚	館古531 -8137	—	—	状	1通	—	—	歴彩館	(58) 122
29	『祇園会鉦記』	—	—	—	—	竖帳	1冊	—	—	歴彩館	(59) 121

凡例

一、掲載した文献史料は、鷹山の木部・御神体人形・懸装品に関連する史料を主体とし、かつ鷹山の歴史に欠くことのできない史料を収集したものである。

一、「史料名」欄の名称は、書籍類を『 』、文書類を「 」で記した。

一、「史料群名」欄の略称は掲出順に次のとおりである。八坂神社（八坂神社文書）・三条衣棚（三条衣棚町文書）・六角町（六角町文書）。

一、史料群「三条衣棚町文書」に属する史料の名称は、京都府立京都学・歴彩館での文書名に準拠した。

一、「形態」欄は、版本のみ分類を示した。

一、「所蔵」欄の略称は掲出順に次のとおりである。歴彩館（京都府立京都学・歴彩館）、刈谷園（刈谷市中央図書館）。また祇園祭山鉦連合会・各保存会については、「公益財団法人」の表記を省略した。

一、本表は京都市文化財保護課 山下絵美が作成した。

史料群名 三条衣棚町文書
史料番号 館古531・8137

時代 未詳

形態 状

員数 1通

所蔵 京都府立京都学・歴史館

所収 同志社大学人文科学研究所『祇園会山鉾「鷹山」関係資料(下)』

―京・三条衣棚町文書―昭和四十五年

当町鷹山之内、人形樽負殿ニ粽為持候事、往古よりもたせ来り候而、何故与申謂れ書之物も無之候へ共、狩場ニて休息仕居候躰ニ候へは、か様之姿ニ造候由、又ハ粽ハ瘡疫を払候物之よしともよしと

〔文献29〕

史料名 『祇園会鉾記』

時代 未詳

形態 縦帳

員数 1冊

所蔵 京都府立京都学・歴史館

樽負山 又鷹山トモ云 三条通新町東江入町

是ハ上代公家御鷹狩ノ体也、昔ハ遊山或野逍遙ニ弁当ニ必粽ヲ為レ持云云、此

山ニ官職人居レ鷹ヲ奴僕ハ負レ樽ヲ喰レ粽ヲ之凶形皆古代ノ風也

凡例

- 一、旧字・異体字・合体字などは、現在通常に用いられている字体へ改めた。
- 一、原本の改行及び、平出・闕字などの表敬表現は略した。
- 一、原本には、一つ書の横などに合点・朱点・丸などの記号が振られているものもあるが、略した。
- 一、適宜、読点「、」を補った。
- 一、本史資料群の翻刻は、京都市文化財保護課 山下絵美が、校訂は京都市歴史資料館 井上幸治が行った。

但し金更沙

赤地古獅〃

一 紺地龍水引 一枚

一 赤帶刀金蘭 一枚

一 菊唐折 一枚

白小金欄

合仕立

一 胴幕 四枚

一 更紗幕 一張

一 見送り 二枚

唐縫

獅子

一 見送り下掛 一枚

一 獅子吼額仕立

一 網隠し 二枚

紅金巾

一 青綱 一卷

并青水切添

一 家根合羽 二枚

窓附表家根

一 同網掛ヶ 二枚

并二小合羽

一 胴卷合羽 四枚

〔文献27〕

史料名 「鷹山修復中神事省略願書」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・8051

時代 午五月

形態 状

員数 1通

所蔵 京都府立京都学・歴史館

口上書

一 当町鷹山之儀、去戌年破損仕、其後修復出来、亦去巳年も其段御届申上置町内之者精々申談候得共、何分当町之儀者、片側町二而當時家持四軒より無之、借財難人等多、失脚出方必至与差支、破損已来彼是年数相立候得共、以今修復出来不申候二付、差出兼、外山鉾町之気合二も拘り可申哉と歎ケ敷奉存候得共、何分前又之仕合、誠二近年渡世向も薄久、誠二取凌兼、追々借財相嵩候程之仕合二而、逆も昨年も難差出御断申上、同年之処者、御聞濟被成下候二付、当年神事迄如何様共仕可差出様、乍小町色々申合、及示談候得共、元来無人之町栖二而、近年町中不仕合打統候故、山差出し可申仕方も難□□候得共、□□年別段被仰聞候、御趣意之趣、町中一統□□□□久々中絶仕、自然町内不相続之基二茂可相成哉と神慮之程恐入、銘々如何斗心配仕罷在候得共、何分前又之仕合、近来町中不仕合二而、借財相嵩纒之融通難調、当時之姿二而者、堅昇山二致、成丈ヶ省略仕候而も、逆も当年之所難差出、猶乍無人精々申談、来未年神事二者、差出候様可仕候間、出来迄之所、御断申上度右之趣、御役所様表御聞濟相成候様仕度、此段偏二奉願候、以上、

午五月

雜式四座

御衆中様

年寄 吉右衛門印

〔文献28〕

史料名 「人形樽負殿ノ由来下書」

一 塗柱 前後 六本

組立道具

一 四本柱 四

寅卯辰巳午

寅卯辰巳午

一 鬼貫 式丁

寅卯辰巳午

一 梁桁 式丁

寅卯辰巳午

一 貫 十丁

寅卯辰巳午

一 すじかい 八丁

寅卯辰巳午

一 梁桁もみこ 式丁

寅卯辰巳午

一 柱足がため 五丁

寅卯 巳午

一 舞台側 四丁

寅卯辰巳午

一 角柱 四本

寅卯辰巳午

一 埒縁氈張立 六本

〃〃 巳午

一 同横 四本

寅卯辰巳午

一 舞台柱切込 三丁

寅卯辰巳午

一 牛持もみこ 式丁

寅卯辰巳午

一 横かみ 四丁

但し掛替とも

寅卯辰巳午

一 前板 式枚

寅卯辰巳午

綱摺貫

一 木貫 式本

并ニあぜり式本

寅卯辰巳午

一 新あゆミ 三枚

長テ 壺

前後 式也

寅卯辰巳午

一 手こ 式本

卯辰巳午 式本

一 大手こ 式本

寅卯辰巳午

一 真木 壺本

但し貫足掛り九本

せん箱ニ有

寅卯辰巳午

一 反木 壺本

- 一 御太刀 并三台壺
- 一 脇さし
- 一 古さや
- 〆 氈箱
- 一 氈幕 北南式ツ
- 并 鈎苧繩六筋
- 〆 氈箱
- 一 右同断 前後式ツ
- 并 鈎苧繩四筋
- 〆 ひやうし木 四組
- (以下四行重複ニ付省略)
- 蔵へ入
- 十 屋台金物箱 壺
- ” 十 長みす 壺
- ” 十 せん箱 壺
- 一 上敷 四枚
- 辰 一 あゆみ屋根 一色
- まるた柱 四本
- けた 式丁
- はり 式丁
- つか 式本 二階の棚
- つなき 式丁

-
- 障子 四枚
 - 家台之部
 - 一 上棟 表家台 壺本
 - 一 同 後小 式本
 - 一 棟桁 表 壺本
 - 一 同 後 式本
 - 一 桁 表軒 式本
 - 一 同 後軒 式本
 - 一 同 後 式本
 - 一 梁 表 四本
 - 一 同 後 三本
 - 一 束 前後共 七本
 - 内はち束三丁
 - 一 千鳥板前後 六枚
 - 内箔板四枚
 - 一 下魚 式ツ
 - 一 後家根内たるき 四本
 - 但し桁 式本添
 - 一 軒口前後 四丁
 - 一 破風 前後 八枚
 - 内付破風式枚
 - 一 ひじき 式丁
 - 附破風揚出し
 - 一 水引懸 三丁
 - 一 家根 表 八枚
 - 一 同 後 六枚
 - 一 鐘釣 式本
 - 一 幣串 四本

一	黒紅紗金狩衣	一
一	松重同水干	式
一	ゑり付	三組
一	石帯	三
一	綾刺貫	壹
一	すそ袴	一
一	綾鷹袴	一
一	木綿下ぐもり	三
一	白地金乱床懸水引	壹
	壺屋又兵衛預り	
	金幣箱 新古式箱	
	ちやうちん木 四ツ	
	かわご	
	類焼	
	陣笠入かわご	
	古世式有	
	新	
	十一屋伝兵衛預り	
	太鼓 三ツ	
	但し太鼓台式ツ	
	鉦 七丁	
	但し古つり緒七筋	
	鍵屋弥兵衛預り	
	丁ちん入かわご 式ツ	
	内山ノ丁ちん 卅式	

	蔵入	馬	辻
	御首箱	〃	〃
	但し御首三ツ		七ツ
	并色々 <small>（マヤ）</small> せん有		式ツ
	御手箱		
	一 御手	六本	
	一 雉子	壹	
	一 鷹	壹	
	一 犬	壹	
	一 江ふご	一	
	但し山鳥尾入		
	一 くび玉	一	
	一 古天水引出切		
	古氈箱 前後ト書付有方		
	一 幣ぐし	壹本	
	一 毛せん	三枚	
	一 金幣串	四本	
	古長箱		
	一 玉すたれ	式	
	一 毛せん	式枚	
	一 雉子とまり木		

- 千切屋猪之介預り
- 烏帽子箱
- 一 公帽子 壺
- 一 土帽子 式
- 一 金幣留メ紐 四ツ
- 夷屋伊兵衛預り
- 千切屋九兵衛預り
- 古総角箱
- 一 箱入紅紐 四
- 但し、大繩鷹緒樽紐ゑふご紐
- 一 鷹遣水むち 一
- 一 紅ノ古紐 四筋
- 一 黒あけまき 式
- 一 紅ふさ 十式
- 一 同大小 式
- 一 黒同 式
- 一 もへき同 壺
- 一 中啓 三本
- 一 おんどつな 新古式
- 一 同黒かざり綱 一對
- 一 紅木綿柱巻 木
- 是は見送り壺包ニ□□
(なるカ)

- 一 古急ぼし 式
- 一 紅木綿鉦つり 四
- 一 拍子木 四組
- 一 緋板胴幕 壺
- 新総角箱
- 一 金幣紅大あけまき 四ツ
- 井筒屋徳兵衛預り
- 総角箱
- 一 花色あげまき 八ツ
- 一 後家台天水引総角 三ツ
- 一 金幣頭金物 四ツ
- 一 くきかくし 八ツ
- 井筒屋徳兵衛預り
- 衣装箱
- 一 古狩衣水干 七
- 一 古刺貫袴 五
- 一 綾嶋古切 壺切
- 一 古小袖 三
- 一 紙入 式
- 一 石帯 四
- 一 木綿胴着 式
- 一 紺地朝せん錦小袖 一
- 一 鶯色同 式

- 一 八寸鉢拾枚 箱入
- 一 九寸大鉢式枚箱入
- 一 三ツ組盃壺組箱入
- 一 盃台壺ツ 箱入
- 一 吸物椀拾人前箱入
- 一 丸盃拾枚 箱入
- 一 重箱壺組 箱入
- 一 但しふた式枚付

〔下略〕

壺箱 会所

〔文献26〕

史料名 「鷹山道具預り覚帳」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・8135

時代 寅卯辰巳

形態 横帳

員数 1冊

所蔵 京都府立京都学・歴史館

所収 同志社大学人文科学研究所

『祇園会山鉾「鷹山」関係資料(上)』
「京・三条衣棚町文書」昭和四十五年

〔表紙なし〕

野沓屋吉兵衛預り

見送り箱

一 漢縫見送 壺面

一 獅子同 々

一 張ぐし

- 一 ばらん 壺ツ
- 一 見送赤繩新古四筋

千切屋吉兵衛預り

天水引箱

一 猩々緋真木卷

一 并白木綿左り卷

一 跡屋台金廻龍天水引

一 右同断扇ノ錦天上幕

一 右同断真向獅子雨具水引

一 藤棚表屋台水引

一 丸龍天井幕

一 常懸さらさ胴幕 壺

一 獅子吼うしろ懸 壺

一 緋板

千切屋治兵衛預り

天幕箱

一 猩々緋鳳王(風)天水引

一 緋金中網かくし 式

水引箱

一 金地 菊水引

一 白地 大内桐同

一 紺地 龍水引

一 金襴(マ)帯 刀水引

木綿胴着 式ツ
 紺地朝鮮龍錦小袖 壹
 鳶色地同 壹
 黒紅鸚鵡狩衣 壹領
 松重色水干 式領
 袴附 三ツ
 綾刺貫 壹
 石帯 三
 裾裳袴 壹
 柳條綾袴 壹
 木綿下結 三
 金地雲龍錦 壹
 古狩衣水干 三領 子年改飾
 朱珍差貫 壹領
 古小袖 三着
 紙入 式ツ
 黒けまん式ツ
 鐘之箱 式 右同人
 数八挺
 御首箱 壹 会所藤兵衛
 大臣殿 並ニせん類
 犬遣殿
 樽負殿
 御手六本 物数拾式入 右同人

雉子壹 鷹壹 犬壹首卷共 寫之毛(マ) 鷹水鞭えぶり
 紅紐四筋 末広壹 毛氈三枚 縮緬染分ヶ鐘釣八筋
 朱燭台 壹箱 右同人
 金幣串 四本 右同人
 同台 式組
 太刀并ニ台 壹口
 刀 壹腰
 雉子泊り木 式本
 鳥毛 式本
 羽帚 式本
 家根 壹式 右同人
 鐘釣 上七ツ 右同人
 下九ツ
 大鞍 三 右同人
 并ニ古鐘釣壹
 木柄 壹式 町山道具入
 灯燈 壹式 右同断
 但し百廿九張
 引綱 上下 式筋 右同断
 会所江預置道具
 引盃三拾七枚箱入
 間鍋式ツ 箱入

- 唐織菊 壹枚㊟
- ノ 常掛天水引
- 一 紅大総角 四筋㊟ 右同人
- 音頭綱長 壹筋㊟
- 棗組房 貳筋
- 花色古総角 八筋
- ㊟音頭綱 貳筋㊟
- 又貳筋㊟
- ノ 壹箱
- ㊟一 見送り箱 壹 野沓屋吉兵衛
- 漢縫花鳥 壹枚㊟ 鳥飾式本
- ㊟獅子 壹枚㊟
- 房共㊟并毛氈式枚
- 一 鷹并大房四ツ 箱㊟ 右同人
- ノ
- ㊟一 天水引 壹箱㊟ 千切屋次兵衛
- 猩々緋鳳凰
- 朱八ツ足台 三
- 木綿日覆 ㊟
- ノ
- ㊟一 毛氈 貳箱㊟ 右同人
- 但し 胴幕
- 〔追筆〕「新毛氈式枚」
- 二 平 壹 右同人
- ㊟獅子吼後掛 壹 ㊟
- ㊟猩々緋天井幕 壹 ㊟

- ㊟猩々緋綱隠シ并紋共㊟
- ㊟猩々緋柱卷㊟ 松卷白木綿㊟
- 并田木綿某
- 〔異筆〕『浅黄総角箱入』 〔貼紙〕
- 二 藤之棚天水引 壹枚㊟ 右同人
- 真向龍 同 壹枚㊟
- 猩々緋綱隠 貳枚
- 瓜卜巴 紋 貳枚
- ノ 壹箱 〔抹消〕
- 一 金糸総角 壹箱㊟ 右同人
- 内ノ紅古総角三ツ入
- 一 烏帽子 三領 会所 亀屋理右衛門
- 金幣萌黄真田間紐 貳筋
- 赤ひも 四筋 ㊟壹箱
- 一 花色木綿幕㊟ 土蔵 右同人
- ノ 壹箱
- ㊟一金幣 貳箱㊟ 橘屋徳三良
- 大 壹箱
- 小 壹箱
- ㊟一浅黄総角八筋㊟ 右同人
- ㊟金幣之頭金物 四
- まっ卷之田木綿壹ツ 紅総角三ツ
- ノ 壹箱
- 一 衣装箱 壹 会所土蔵 右同人

一	屋根	水干 萌黄鸚鵡丸金沙 袴 柳條綾 惣黒塗破風裏宗金前後 草花粉色軒裏宗無地金 草花粉色軒裏宗無地金
		宗金物減金 ^(註)
一	天井幕	緋羅背板
一	天水引	猩々緋雲鳳凰縫
一	上水引	金地麒麟錦
一	中水引	猩々緋唐花縫
一	下水引	白地大内桐唐草金乱 ^(註)
一	前胴幕	毛氈草花模様
一	左右後同	毛氈蜀江形 ^(註)
一	見送り	花鳥縫結
一	舞台四方	金幣紅房附
一	埒縁	黒塗無地
一	四方角留	金物鷹紅房附
一	胴幕角留	金物蝙蝠淺黄房附
右		
	一文政十年亥年より相休居申候	
	年寄 吉右衛門	
	〔以下前半目録ト重複ニツキ省略。異問ハ右〔 〕中ニ補ウ〕	
	〔奥書〕	
	右ハ弘化二年六月、町代より山由来御尋之方有之候故、写具様申参り候	
	処、当町山由来一切分り不申、左記無記し故、右之通り書付差出し申候事	

右ハ六月二日御目附方より中座兼松より廻文参り、山鉾飾附織物類迄書出し候様申参候間、先文之通^(返)書相出し候間、尙通又々三日大宮 灰菊より橋弁慶町より持廻り廻文^(返)参候間、又々尙通差出候事
嘉永四辛亥六月
年寄 七郎兵衛
利右衛門

〔文献25〕

史料名 「祇園会神事当家式目」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・8117

時代 文化六年(一八〇九)

形態 竖帳

員数 1冊

所蔵 京都府立京都学・歴史館

所収 同志社大学人文科学研究所『祇園会山鉾「鷹山」関係資料(上)』

—京・三条衣棚町文書—昭和四十五年

〔前略〕

鷹山諸式預り主覚

一 花色木綿

幕 尙箱

一 車

町物入

一 水引箱

尙

千切屋吉右衛門

窓 金地麒麟

四枚^(註)

窓 猩々緋縫

四枚^(註)

窓 白地大内桐

四枚^(註)

紺地龍

尙枚

天保二卯年十月廿八日売払

出入帳ニ入有之

- 一 宗金物減金
- 一 天水引
 - 一 猩々緋雲^ニ鳳凰縫
- 一 上水引
 - 一 金地麒麟錦
- 一 中水引
 - 一 猩々緋唐花縫
- 一 下水引
 - 一 白地大内桐唐草金乱
- 一 天井幕
 - 一 緋羅背板
- 一 前胴幕
 - 一 毛氈草花模様
- 一 左右後同
 - 一 毛氈蜀江形
- 一 見送り
 - 一 花鳥縫結
- 一 舞台四方
 - 一 金幣紅房附
- 一 埒縁
 - 一 黒塗無地
- 一 四方角留
 - 一 金物鷹紅房附
- 一 胴幕角留
 - 一 金物蝙蝠淺黄房附
- 右
 - 一 文政十年亥年より相休居申候

右之通相認め、天保三年^{壬辰}六月東御役所へ差出し候様^ニ中座申来り候間、則中座へ相渡し候故、写置

「山品書之控」 吉右御門

〔文獻24〕

史料名 「鷹匠人形他一式覚」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・8125

時代 天保三年（一八三二）六月

形態 縦帳

員数 1冊

所蔵 京都府立京都学・歴史館

所収 同志社大学人文科学研究所『祇園会山鉾「鷹山」関係資料（上）

—京・三条衣棚町文書—昭和四十五年

〔端書〕

〔天保三辰六月〕

三条通新町東^江入衣棚北町

鷹山

一 鷹匠人形 着附 紺地楽器模様朝鮮錦

一 狩衣 黒紅鸚鵡丸金紗

一 差貫 浅黄丁子立分綾

一 着附 鳶色雲丸龍朝鮮錦

一 水干 萌黄鸚鵡丸金紗

一 袴 白宇根居裾紫

一 樽負人形 着附 鳶色雲丸龍朝鮮錦

〔犬遣〕



〔文献23〕

史料名 「鷹匠人形他一式覚」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・8126

時代 天保三年（一八三二）六月

形態 状

員数 1通

所蔵 京都府立京都学・歴史館

所収 同志社大学人文科学研究所『祇園会山録「鷹山」関係資料（上）

—京・三条衣棚町文書—昭和四十五年

三条通新町東入衣棚北町

鷹山

一 鷹匠人形

着附 紺地楽器模様朝鮮錦

狩衣 黒紅鸚鵡丸金沙

袴 浅黄丁子立脇綾

一 犬使人形

着附 鳶色雲丸龍朝鮮錦

水干 萌黄鸚鵡丸金沙

袴 白宇根織裾紫

一 樽負人形

着附 鳶色雲丸龍朝鮮錦

水干 萌黄鸚鵡丸金沙

袴 柳條綾

一 屋根

惣黒塗破風裏宗金前後

草花粉色軒裏宗無地金

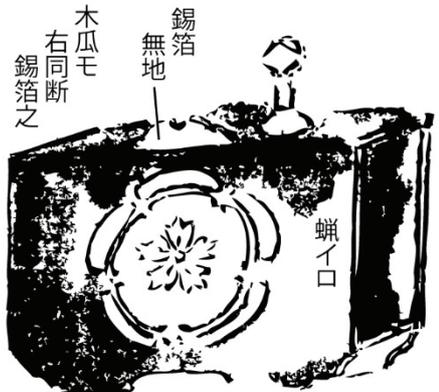


冠者衣服
煤竹茶朝鮮裏吹
錦花ニチリクモ模様
丸

此人形ノ名ノミ知らず
世ノ人太郎ト言ヘリ金
太郎冠者ト言事ニヤシ
ラズ俗ニ太郎山ト言ヘリ
亦背ニ酒樽負タル故ニ誤テ
樽負山ト言人稀ニアリ

三ツ之人形ノ中太郎
ノミ艶ナシ往古神事
ノ節途中ニテ落損シ
タリ塗直スモイカ、シク
ト口今其俣ナリト言リ

此模様并ニ色取等
アラカタラ
ウツス



樽ノ表ノ図 格分此方
ヨロシク

御首箱三ツ人形
志宮ナリ但蓋裏
書附ニ

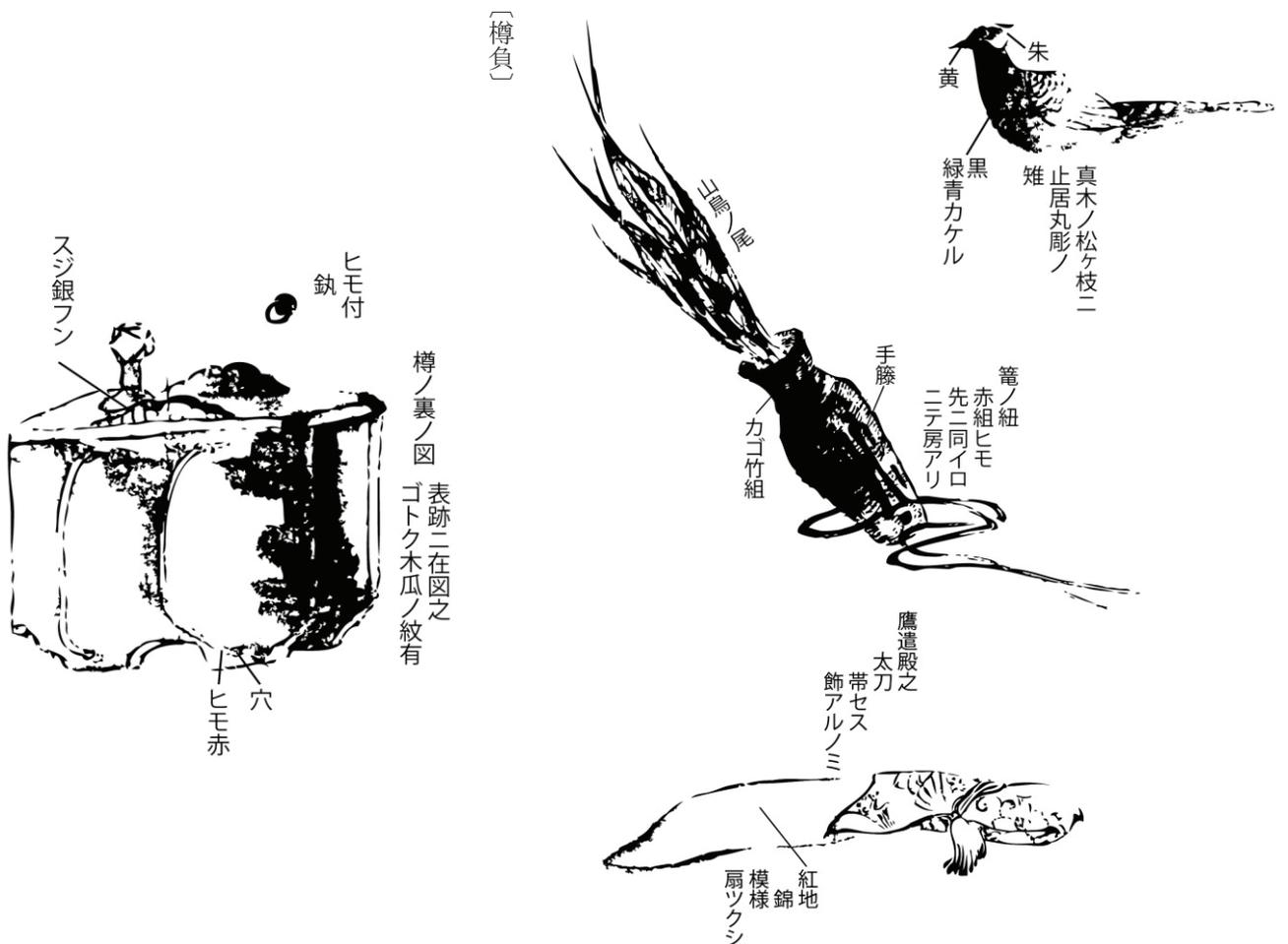
圓融院御宇祇園會始
天祿二年辛未載六月十四日
入日記 明和七庚寅年
八百八十年

右ノ読諸々ノ書ツケ張重リ
ワカリガタク



文化九申年ゴ口人形
衣服装束不殘
目覚しく新たまる





〔下略〕

〔文献21〕

史料名 『祇園山鉾書（人）』

史料群名 六角町文書

史料番号 DIII・30 フィルム番号1854（京都市歴史資料館）

時代 文政十年（一八二七）

形態 縦帳

員数 1冊

所蔵 公益財団法人北観音山保存会

□□□□神事

鷹山樽負山共 三条通新町東入

之日四条東洞

鷹野の体ヲ風流ニ作ル者也昔ハ遊山或ハ野道遙ニハ弁當ニ必

院ニ而大急雨

ス粽ヲ為レ持ト云官職人居レ鷹ヲ奴ハ負レ樽ヲ喰レ粽ノ圖古代風

二逢鏝リ附濡

翌年ヨリ連年

也たつとりの人を引こす落草に犬よびかはしあさる狩人

不出

一 鷹遣 折烏帽子ヲ着左ノ手ニ鷹ヲ居ル手ニ餌ガヒヲ持ツ年六十一計也衣装紺地朝鮮錦狩衣ヒワ茶浅キハツ藤ノ差貫ヲ着ス 樽 負後ノ方ニ居年四十計リ侍烏帽子ヲ着左

右ノ手ニ
大粽ヲ持

一 犬使 年三十計ノ男侍烏帽子左右ノ手にナワヲ持ツ衣装朝鮮錦キ赤地水干指貫浅キ純子 一 真男松

屋根 裏敷金 一 網隠 猩々緋 一天水引 一 上水引 一下水引 一 胴

卷 一 見送

寄り町

一 三条通新
町西□

衣棚町南側

一 三条
釜座 釜座町南側

今日地ノ口參

納ノ行事衆工

一 寺町通三
条上ル 天性寺前町

一 寺町通御
池下ル 下本能寺前町

一 同ク御
池上ル 本能寺前

素麵ヲ出ス

町 一 同ク二
条下ル 妙満寺町

一 西洞院六
角下ル 池須町 已上

〔文献22〕

史料名 「鷹山御神体人形図」

時代 天保二年（一八三一）

形態 掛幅

員数 1幅

所蔵 公益財団法人鷹山保存会

〔表具賛〕

写し於くもの

かけ画と

なりけるを

かくとて

ひめ

おくを

見せて

耻かし

土用干

己未仲夏

秋華円

（信）（直）

〔本紙落款〕

天保二年卯林鐘十四日写

信直敬（印）

一 当町鷹山屋根塗一式、金物増間水引取替、猩々〔緋色〕非唐花縫欄縁并総角房掛

共、取替致候間、依之右之段御届申上候、以上

文政三年辰五月

三条通鷹山町

荻野七郎右衛門殿

松尾佐兵衛殿

松村三郎左衛門殿

五十嵐源吾殿

〔文献19〕

史料名 「鷹山屋根塗一式ほか取替届書案」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・8003

時代 文政三年（一八二〇）五月

形態 状

員数 1通

所蔵 京都府立京都学・歴史館

所収 同志社大学人文科学研究所『祇園会山鉾「鷹山」関係資料（上）

—京・三条衣棚町文書—』昭和四十五年

口上書

一 屋根 塗一式

一 金物類 取替

一 間水引 猩々緋唐花縫

一 欄 縁総角、房掛取替

右之通、取替差出シ候間、御届申上候、以上

文政三年

三条通鷹山町

辰六月

年寄七郎兵衛 印

雑色四座

御中間中様

〔文献20〕

史料名 「鷹山破損二付諸方掛合」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・8122

時代 文政十年（一八二七）五月

形態 状

員数 1通

所蔵 京都府立京都学・歴史館

所収 同志社大学人文科学研究所『祇園会山鉾「鷹山」関係資料（下）

—京・三条衣棚町文書—』昭和四十六年

口上書

一 例年御神事之節、当町内鷹山差出来り候処、去戌年六月十四日、於途中大風雨二而及大破、未修復難出来、当年儀者差出不申候二付、此段御断奉申上候、尤修復出来差出候ハ、其節御届奉申上候間、右之段御聞置被成下候様仕度、此段御断奉申上候、以上、

文政十丁亥五月

三条通鷹山町

年寄七郎兵衛

雑式四座

御衆中様

五人組理右衛門

右之様子二而段々懸ケ合二而延引二相成候、此趣二認メ廿八日二則今日御役所様へ申上候由承、帰宅致候、廿九日朝、南町年寄壺屋又兵衛殿へ先内談之趣二而右熟談二七郎兵衛参り、当年者山差出不申候間、地之口米茂御納メ被下候儀ハ御休被下度、尚又山修復出来差出候ハ、古例之通御納メ被下候様、御書附為取替二被成下度、此段御相談之上、宜鋪御頼申上候与申て退出ス、

錦、水干萌黄地紗金

下袴ヲ着

樽負 年来四十斗男

侍烏帽子着左右ノ手ニテ

大笹粽ヲ持欲食体

衣装鶯色地朝鮮錦

上ニ水干萌黄地紗金下

袴ヲ着 ツクバヒ居カタチ

屋根 黒塗減金ノ物

文化七年午六月屋根新調木地

文政三年辰六月金箔置前後草木花極彩色

屋根裏垂木間金箔置 源章画

真松 白幣付ル 枝ニ雉

一羽有 網隠シ

天井幕 赤地錦

上水引 猩々緋雲鳳皇縫

下水引 地織雲麒麟

隅総掛鷹赤総ヲツカミ翔ル形

二番水引 紺地錦模様

唐松龍浪

三番水引 金地菊

胴幕 四方共毛タンツウ

縁猩々緋 紺花色糸

異国人物縫 唐艸蔓

見送 花鳥唐縫

縁 猩々緋

金幣 四本

天明八年申正月大火車木柄等焼失

鷹山 天明八年申六月ヨリカキ山ニテ出

文化四年卯六月ヨリ如火災前掛車引

山建 九日 引初十二日

下水引 金地

二番水引 猩々緋更紗形蔓唐花縫

三番水引 白地金襴

文政九年戌六月十四日 辰鉢

途中ニテ大慕雨破損 御訴訟申上

文政十年亥六月十四日不出之

〔文献18〕

史料名 「鷹山屋根塗一式ほか取替届書案」

史料番号 館古531・8002

史料群名 三条衣棚町文書

時代 文政三年（一八二〇）五月

形態 状

員数 1通

所蔵 京都府立京都学・歴史館

所収 同志社大学人文科学研究所『祇園会山鉾「鷹山」関係資料（上）
—京・三条衣棚町文書—』昭和四十五年

口上覚

云々、然ハ行平行幸供奉の時、鷹飼の体を寫したるならん、
 因に云、伊勢物語にハ業平朝臣供奉して大鷹の鷹飼に宣下せ
 られたる時よめるか如くあれとも、左にあらざ、芹川行幸十
 二月十四日に有し事ハ三代実録に見ゆ、此時行平卿供奉にて
 翁さび云々とよまれたる事、後撰集に入てうたがひなし、元
 来伊勢物語ハ実事を書し物にあらず、作り物語の事なれば咎
 むべき事にあらず、

飭附

京師大火後しば
 らく昇山にて
 出し候当時ハ以
 前のごとく引山
 になりしハ甚目
 出度事也

人形中納言行平卿 チウナゴンユキヒラケウ 山の左りのはしに有、大つかひとむかひ合す、折烏帽子を着し、左に鷹を居、右の手に餌飼を持、衣装ハ紺地の朝鮮錦、狩衣ハ紺地紗金あさぎ、
 八藤のさし貫を着す、
 下ばか タルラヒ 年来四十才ばかりの男体、烏帽子を着左右の手にて大粽を持た、
 樽負り、衣装ハ鶯色朝鮮錦、上に水干萌黄地紗金、下ばかまを着す、
 黒塗金かな
 もの有、
 真松 白幣を付る、枝に雉子一羽あみかくしあり、
 天井幕 赤地錦、
 上水引 狸々緋雲に鳳
 下水引 地をり金地雲に麒麟のもやう、
 二番水引 紺地錦もやう、唐松龍浪等なり、
 三番水引 花鳥唐緋、へり狸々緋、
 見送 花鳥唐緋、へり狸々緋、
 金幣

古例

増補

六月九日山建 予か幼年の比ハ十一日也、夫より十日に成、今ハ九日より建る、
 同十一日 人形衣装付ケ、 十二日 山引ぞめ、 当日山渡りしまい東洞院四条上ル町にて囃方町中供皆々休足す、夫より当町へ帰り、三条西洞院辻迄引行也、
三条西洞院東江入釜座町寄町ある故なり、

寄町

当町 三条通
 衣棚南町 新町西江入
 釜座町 寺町通
 天性寺前町 寺町通
 下本能寺前町 御池上ル
 本能寺前町 御池上ル
 妙満寺前町 御幸町通
 丸屋町 御幸町通
 大文字町 御幸町通
 龜屋町 御幸町通
 山本町 御池上ル

〔文献17〕

史料名 『祇園会山鉾装鈔』（十四日部）

時代 文政元年（一八一八）

形態 縦帳

員数 1冊

所蔵 京都府立京都学・歴史館

鷹山 三条室町西

衣棚町北側

人形 中納言行平卿

山ノ左端二有、犬飼ト向ヒ合

折烏帽子着、左ニ鷹ヲ居

右ニ餌飼ヲ持

衣装紺地朝鮮錦

狩衣ハ紺地紗金

浅黄八ツ藤サシヌキ着

犬使 山ノ右二有

年頃三十歳斗男

侍烏帽子着、右ノ手ニ犬ノ

繩ヲ持、衣装鶯色朝鮮

松村三郎左衛門殿
五十嵐源吾殿

〔文献15〕

史料名 「山飾附之事」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・8111

時代 享和三年（一八〇三）六月

形態 状

員数 1通

所蔵 京都府立京都学・歴史館

所収 同志社大学人文科学研究所『祇園会山鉾「鷹山」関係資料（上）

—京・三条衣棚町文書—』昭和四十五年

山飾附之事

- 一 鷹飼犬飼樽負人形 三
 - 一 屋躰天水引 猩々緋雲鳳王縫
 - 一 後屋躰天水引 白地金更紗
 - 一 上水引 紺地唐松滝瀧一華錦
 - 一 間水引 菊模様唐織
 - 一 下水引 白地大内桐金欄
 - 一 胴幕 毛織天鵝絨毯 縁猩々緋人物縫
 - 一 見送り 漢縫花鳥 縁猩々緋雲鶴岩浪縫
- 右飾附是迄之通二而品替り無御座候、以上
享和三年亥六月 三条通鷹山町

〔文献16〕

史料名 『増補祇園御霊会細記 参』（役行者山本）

時代 文化十一年（一八一四）
形態 版本
員数 1冊
所蔵 役行者山保存会

鷹山 三条通室町西江入町
衣棚町北側、

縁起

鷹狩の体を風流に作りなしたる也、鷹つかひ犬つかいの人形あり、又一人の従者樽を負ひ手に粽を持って食ふ有さまおかしける故、太良山とも樽負山ともいふ、是本文の説なり、

増補

増補

中納言行平卿ハ人皇五十一代平城天皇ノ御子阿保親王ノ子息也至ル正三位中納言在原ノ業平卿ノ兄君也

一説に、此山の人形右大将頼朝なりといひ、又中納言行平なりといふ、いつれか是なるやと愚町内の人に尋しに、其人の曰、中納言行平なり、即人形箱の書付に行平とあり、然らハ中納言行平に相違あるまじと答ふ、愚按するに、或説に云、光孝天皇仁和二年十二月十四日、芹川の行幸の時行平供奉す、衰老の身にて大鷹の鷹飼に宣下せらる、于レ時述懐の心をよめる、

翁さび人な答そ狩衣けふ斗とぞ田鶴も鳴なり

と詠し摺狩衣の袂に書付て出にける、

主上御覽し逆鱗有て、官爵を解て摂州須磨の浦に被二近流

左右 右同断 縁猩々緋雲画縫
見送り 漢縫花鳥 縁猩々緋雲鶴岩頭之縫

「通御座候」

三条通衣棚北町

年寄 治兵衛

寛政五年丑六月

〔奥裏・異筆〕

〔文政三辰春改

御触状写〕

〔文献13〕

史料名 『祇園会山鉾飾附品』

時代 寛政五年（一七九三）

形態 縦帳

員数 1冊

所蔵 公益財団法人祇園祭山鉾連合会（複写）

鷹山

人形三 鷹飼 狩衣 黒紅色紗金

模様 鴛鴦蛮絵

刺貫 浅黄地貫紫

犬飼 水干 松重色紗金

鸚鵡蛮絵模様

袴 精好紫裳濃

樽負 水干 右同断

袴 綾嶋

飾附

水引 紺地 瀧龍蝦夷錦

洞幕 毛織 天鷲絨氈

縁猩々緋縫

左右共同断 人物有

見送 漢縫花鳥

通り猩々緋雲鶴岩頭之縫

〔文献14〕

史料名 「口上覚」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・8109

時代 寛政十年（一七九八）三月

形態 状

員数 1通

所蔵 京都府立京都学・歴史館

所収 同志社大学人文科学研究所『祇園会山鉾「鷹山」関係資料（下）
―京・三条衣棚町文書―』昭和四十六年

口上覚

一 当町鷹山之儀、去ル申年火災之節、車道具一式焼失仕候ニ付、同年六月より当分人足ニ荷セ、昨年迄毎年差出来候処、此度如元取繕、当年より以前之通曳山ニいたし差出申度候、依之右之段御届申上候、以上

三条通鷹山町

寛政十年^午三月

年寄 吉左衛門

五人組 吉右衛門

同 弥兵衛

松尾佐兵衛殿

荻野七郎左衛門殿

時代 天明五年（一七八五）
 形態 状
 員数 1通
 所蔵 京都府立京都学・歴史館
 所収 同志社大学人文科学研究『祇園会山鉾「鷹山」関係資料（上）
 一京・三条衣棚町文書一』昭和四十五年

鷹山 三条通新町東江入衣棚北町

鷹飼 狩衣紗金黒紅
 鴛鴦番絵指貫
 浅黄地紫轡唐草

人形三 水干紗金松重

犬飼 鸚鵡番絵 袴
 うね精好紫裳濃

樽負 水干右同断

雉子 袴綾嶋

飾附

天水引 猩々緋雲鳳王之縫

鰲山禪師之画

後家台天幕 金華布

上水引 紺地瀧龍蝦夷織

胴卷 中水引 金地百花菊唐織

下水引 白地大内古金欄形

前掛 毛織リ天鷲織花氈

縁猩々緋縫

左右 右同断

縁猩々緋蛮画縫

見送 漢縫花鳥

縁猩々緋雲鶴岩頭之縫

右之通御座候

三条通衣棚北町

天明五年 年寄 徳兵衛

乙巳六月

〔文献12〕

史料名 「鷹山飭付書上」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・7995

時代 寛政五年（一七九三）六月

形態 状

員数 1通

所蔵 京都府立京都学・歴史館

所収 同志社大学人文科学研究『祇園会山鉾「鷹山」関係資料（上）
 一京・三条衣棚町文書一』昭和四十五年

〔端裏書〕

〔書上ヶ写

丑六月〕

三条通新町東江入衣棚北町

鷹山

鷹飼 狩衣紗金黒紅、鴛鴦蛮絵模様、刺貫浅黄紫轡唐草

人形三 犬飼 水干紗金松重色、鸚鵡蛮絵、袴うね織精好紫裳濃

樽負 水干右同断、袴綾嶋

錦附 水引 紺地瀧龍蝦夷織

胴幕 前 毛織リ天鷲絨氈 縁猩々緋縫

一 百十九貫四百五十一文同断

車屋

一 金老兩 長右衛門

一 四十一匁八分 貝十

錢壹貫七百八十式文

一 式貫目

山新調
色々入用

別帳二付

〔下略〕

〔文献10〕

史料名 「鷹山人形・飾付一式覚」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・8103

時代 天明二年（一七八二）六月

形態 状

員数 1通

所蔵 京都府立京都学・歴史館

所収 同志社大学人文科学研究所『祇園会山鉾「鷹山」関係資料（上）

―京・三条衣棚町文書―』昭和四十五年

〔上包紙〕

〔祇園会ニ付テ諸一札入〕

三条通新町東江入衣棚北町

鷹山

鷹飼

中納言行平卿

狩衣紗金黒紅鴛鴦

番絵指貫浅黄地

紫轡唐草

人形三

犬飼

水干紗金松重鸚鵡

番絵袴うね精好紫袞濃

樽負 水干同断

袴綾嶋

雉子

飾附

天水引 猩々緋雲鳳之縫

鰲山禪師之画

後家台天幕 金華布

上水引 紺地瀧龍蝦夷織

胴卷 中水引 百花菊之唐織

下水引 白地大内古今金襴形

前掛 毛織り天鷲織花氈

縁猩々緋縫

左右 右同断

縁猩々緋蚕画縫

見送 漢縫花鳥

縁猩々緋雲鶴岩頭之縫

右之通御座候

天明二年 三条ルルル

壬寅六月 年寄 伝兵衛

右十六日夕町代長兵衛より案文到来、則右之通認メ十七日ニ遣ス

〔文献11〕

史料名 「鷹山人形・飾付一式覚」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・8105

一	壹貫三百七十弍文	同人
一	弍匁八分	同人
一	六百四十八文	七人半代 同人
		木代
		酒代
一	拾壹貫八文	河内屋
		太兵衛殿
一	拾弍貫六百七十七文	山田屋
		平介殿
一	弍貫四百七拾文	河内屋
		吉兵衛殿
一	五兩弍分	修理職
		七郎久
		水引代
金	三拾四兩	
代		
銀	三三百八匁三分壹厘	
錢	百拾九貫四百五拾弍文	
代		

〔文献9〕

史料名 「祇園会入払帳」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・8096

時代 元文四年六月吉日

形態 横帳

員数 1冊
所蔵 京都府立京都学・歴史館
所収 同志社大学人文科学研究所『祇園会山鉾「鷹山」関係資料(下)』
—京・三条衣棚町文書— 昭和四十六年

〔前略〕

天明二年寅六月払

〔中略〕

一	五貫弍百七十六文	金四郎
一	百弍拾目	同人
一	八貫文	繩屋 庄右衛門 わら引綱
		弍卷
一	三貫六百十三文	同人
		大弍丸五丸 七五五丸
		堺屋
一	壹貫四十文	吉右衛門殿
		五文取二百匁
一	十三匁	壺亦
		素麴
一	金六十六兩壹歩	山屋祢新調 其外色々入用 別帳二付
一	五百目	同断
一	金三十四兩	同断
一	三百八匁三分壹厘	同断

一〃 九分 長左衛門殿
 一〃 水引代
 一〃 式歩式朱 升屋 九郎兵衛殿
 一〃 箱置代
 一〃 六百文 同人
 一〃 七百式文 たわら屋
 一〃 式貫木宙木拾文 左兵衛殿
 一〃 箱代
 一〃 壹貫四百文 檜皮屋
 一〃 百四拾文 籠屋 卯右衛門殿
 一〃 卷かご代 長右衛門殿
 一〃 藤屋
 一〃 三兩 権兵衛殿
 一〃 鑄方
 五月廿九日
 一 四兩一分 茨木屋
 一 惣兵衛殿
 一 五匁九分 同人
 六月六日
 一 百四十三文 牛持色付
 一 渋代
 一 百文 うるし代
 六月五日
 一 百廿文 こはせ

五月分落 廿四
 一 式貫五百六十式文 手伝 金四郎
 金ノ拾式兩三分 五十九匁四分五
 代七百五十七匁九分八厘七五
 銀ノ壹貫百五十七匁七分
 錢ノ十四貫式百卅一文 九匁三分五
 代百卅式匁六分九八
 払銀高
 合式貫四十八匁式分九厘七毛
 払出銀高
 合六貫六百四拾八匁九分
 九厘四八
 預り銀高
 合六貫四百四拾匁六分八厘
 差引式百八匁三分壹厘四毛八
 扣かし
 六月廿一日 勘定払
 一 式百八匁三分 千切屋
 一 壹厘四八 七郎兵衛
 一 百目 払扣差引残り
 千切屋
 一 式分 板代
 同 治兵衛殿店

	四月廿八日	長兵衛
	祝儀遣ス	
一	三分	伊兵衛殿
	木綿屋	
	喜八殿	
	布代	
	金ノ拾六兩三分 五十九匁四分五	
	代九百九十五匁七分八厘七五	
	銀ノ廿匁	
	錢ノ四貫四百四十六文 九匁三分	
	代四十一匁三分四厘七八	
	払銀高	
	合老貫五十七匁壹分	
	三厘五毛	
	五月四日	銀九匁三分五厘
一	拾五兩	預り
	代八百九十一匁七分五厘	
	五月十九日	五十九匁貳分七厘
一	五兩	預り
	代貳百九十六匁三分五厘	
	銀高 老貫百八十八匁壹分	
	五月分払	
	五月三日	津川
一	三分	伊兵衛殿
	老貫貳百文	ぬし
一	八匁九分	大坂
	喜八殿	
	紺木綿代	
	一文字や	
	廿六匁	久兵衛殿
	六分	五郎丸代
	四兩貳朱	大工
	五拾文	七郎兵衛殿
	老貫廿八文	同人
	同文	同人
	貳貫九百文	酒代
	貳百廿文	瓦師
	土屋	市左衛門殿
	平介殿	
	砂土代	
	会所扣物払	
	酒肴代	
	えちこ屋	
	新兵衛殿	
	赤木綿代	
	丹波屋	
	重兵衛殿	
	沙金綾精好	
	井筒屋	
	六百八十八匁	

〆三拾四兩三分 五十九匁五分五

代貳貫六拾九匁三分六厘貳五

銀〆百七拾五匁三分

錢〆拾壹貫八拾三文 九匁五分

代百五匁貳分九厘

払出銀高

合貳貫三百四拾九匁九分

五厘貳五

十二月廿三日

一 壹分

井徳
売物代

代十四匁貳分貳厘

十二月廿四日

一 五百目

預り

廿七日

一 廿兩

同断 五十九匁
五分五

代壹貫百九十一匁

廿八日

一 拾兩

同断

代五百九十五匁五分

〆銀合貳貫三百壹匁三分八厘

寅三月二日

一 拾六兩

預り 五十九匁四分五

代 九百五拾壹匁貳分

三月分払

三月二日

高嶋屋

一 貳貫三百文

吉兵衛殿

戸板代

一 三百五拾文

左兵衛殿

八脚代

一 八百七十貳文

大工

七郎兵衛殿

酒代共二人

一 十八匁

一文字屋

久兵衛殿

藤岡代

一 三百文

大工

七郎兵衛殿

丸太代

籠取はしこ

藤屋

権兵衛殿

内渡し

坂本屋

惣兵衛殿

仕切

わら一束

のり代

番人

一 五百文

一 百廿文

一 三兩

一 拾三兩

一 三百文

一 十八匁

一 八百七十貳文

一 三百五拾文

一 貳貫三百文

三月分払

代 九百五拾壹匁貳分

式百九十六匁
 同日
 一 壹貫文 同人
 酒代
 代九匁貳分
 同日
 一 二百七拾貳文 会所
 酒たうふ代
 代貳匁五分
 十月廿六日落ル 神崎屋
 一 金壹兩 利兵衛殿
 代五十九匁五分
 〆 壹貫百九十三匁六分一厘
 扣也
 十一月十四日
 右之处へ銀貳貫目預り
 十二月廿五日
 一 貳分 大工
 安兵衛
 祝儀遣ス
 金幣下紙 一帖
 一 六匁
 一 壹匁三分 ミの紙 一帖
 一 百六十八匁 緋金巾 七反
 一 三百八十七文 会所

一 貳貫文 酒代
 藤兵衛
 炭代茶代
 廿八日 大工
 一 五兩三分 七郎兵衛殿
 手間料
 " " 同断
 " " 同断
 一 三百八拾文 同断
 一 壹貫六百六十四文 酒代
 一 五百文 丸太町
 大坂屋
 材木代
 手伝
 金四郎
 洗物屋
 一 七百四十八文 安兵衛殿
 坂本屋
 一 拾三兩 惣兵衛殿
 松屋
 一 七兩 源兵衛殿
 坂本屋
 一 八兩貳分 与兵衛殿
 鍛冶屋
 一 四百七十六文 同人
 坂本屋
 " " 清右衛門殿
 四貫文 材木代

生正ミ 縫料

内金七兩渡

残り縫末出来不仕候

〔以下裏帖より逆書〕

金銀錢払之扣

七月三日

一 銀貳百五拾匁 木曾屋

喜介殿

一 金三步

木挽

平七殿

セに百七拾三文

代四十五匁九分五厘

八月廿三日

一 同貳分

神崎屋

利兵衛殿

代廿九匁五分

九月六日

一 三分

右同人

代四十四匁壹分

九月七日

大工

一 四兩

七郎兵衛殿

代貳百卅五匁六分

一 壹貫文

同人

酒代

代九匁九分

九月八日

一 壹貫百四拾文 木挽

彦兵衛殿

代十一匁貳分貳厘

十月二日

一 貳分

同人

代廿九匁六分

十月十一日

神崎屋

一 壹兩貳朱

利兵衛殿

代六十六匁七分一厘

はりま屋

一 壹貫文

五兵衛殿

代九匁九分

十月廿九日

木挽

一 四百五拾文

彦兵衛殿

代四匁壹分四厘

同日

津国屋

一 七百卅貳文

金四郎

代六匁七分三厘

同日

一 壹兩一分

高嶋屋

代七十四匁

吉兵衛殿

同日

一 九百八拾文

同人

代九匁

同日

大工

一 金五兩

七郎兵衛殿

一 貳百卅四匁 四匁五分かへ

手間人数

五十貳人

一 十一匁九分 いと代

銀正ミ貳百四十五匁九分

大工七郎兵衛殿

一 五匁 かし切木壺丁

せん二成

神事

一 三拾匁 大工

七人半

代貳分

酒百廿四文

木代五百廿四文

合式歩ト

六百四十八文払

坂本屋清右衛門殿

一 百卅六匁六分

正ミ払 材木代

通高

此金貳兩十分

百六拾文

此錢十三貫九百四十四文

九匁八分かへ

正ミ

坂本屋与兵衛殿

一 三百拾三匁六分三厘

正ミ払 鉄物代

通高

此錢卅貳貫文

河内屋吉兵衛殿

一 廿三匁

朽木嶋

貳反

此セに貳貫四百七拾文

竹屋庄兵衛殿

四月十六日

一 六匁五分 大末竹壺本

廿一日

一 八分 六尺五寸

一 八分 割とゆ一枚

一 八分 四尺三寸

一 六分 丸とゆ一本

一 六分 割竹二枚

八匁七分

松屋源兵衛殿

一 五百目

中入木綿 四丈八尺
錢合老貫七百拾六文

海老屋左兵衛殿

六月十三日急用もの

一 八匁 麻立附

正ミ 式人前

笹縁ほたん共

此セに七百廿八文

大工七郎兵衛殿

一 八拾式人半

代三百卅匁

又老貫三百七十式文

酒代

此金五兩式分切

外ニセに老貫三百七十式文也

たわら屋左兵衛殿

一 式匁三分

箱直し

木たし

手間

一 九匁小分

もみ六分板

箱老ツ

一 九匁五分

合羽入箱

手間金物

〆廿一匁六分 木たし共

代式貫六拾文

升屋九郎兵衛殿

一 三百四匁五分

金弊卅六枚

中焼惣金

中板両面

金物箔置共

此金五兩式朱切

七百廿五文

近江屋弥兵衛殿

一 百五十八匁

黒塗引

十文字志ほり

胴卷合羽

四枚

一 百六十六匁

屋根表

松卷桁

四枚

〆三百廿四匁

代三拾貫八百五十文

錢屋弥七殿

内一わり
 正ミ貳百七十三匁九厘 六かへ
 此金四兩一分壹貫百六十九文 五拾也
 外二四百廿文 セに物
 セに合壹貫五百八十九文

河内屋太兵衛殿
 一 九匁七分 松引繩
 拾貳間
 打直し
 真紐引たし
 松あみ
 ないさけ
 惣め壹貫六百匁
 右紺染貫
 手間代
 水なわ
 六拾五わ

一 壹分貳厘 同四わ
 一 貳分四厘 同六わ
 一 八拾文 なわ
 貳間半
 一 五拾六文 同 二間
 一 七拾文 同 七間
 一 三匁壹分五 紺水なわ
 九拾わ
 一 三匁五分 赤染

一 十貳文 見送引繩
 紺水なわ
 四間

一 十貳文 同 三間
 一 十八文 水なわ六間
 一 七匁七分五厘 続なわ
 三百拾わ

一 拾匁貳分七厘 同
 四百廿五わ
 水なわ一わ
 四百八拾匁

一 貳匁七分 此錢
 錢 百七匁四分八厘
 錢 貳百五十六文

六月十一日 河口重兵衛
 一 壹匁九分貳厘 貳分四厘
 晒木綿八尺
 代貳百文

千切屋猪介殿
 一 百三拾九匁
 代貳分卜
 九百七拾文
 又七百四十貳文

十式筋

一 疊縁木綿

但しかちん染

一疋

千切屋七兵衛殿

一 拾壹匁五分

金糸総角

四筋 解

より房二仕かへ

赤江戸打紐

拾わ

一 壹分四

小紐

壹尺四寸

一 八匁六分

六分真田

式わ

一 五分

赤ひも

一わ

一 壹匁貳分

同江戸打

大式わ

一 六匁六分

赤中糸

四ツ打紐

式筋

一 貳百卅三文

一寸貳分真田

一丈九尺

一 百三文

同八分

一丈壹尺

一 壹匁四分

赤糸打

一 壹匁貳分

坪付紐

四すし

衤り上り

腰立

式人分

一 八匁五分

上生糸

狩衣露一領

一 四分

赤いと

志ん糸式筋

一 四匁

黒上糸

四ツ打紐

一 三匁

一丈六尺

二分真田

一 三匁三分

一玉

赤江戸打

一 八拾文

紐 三わ

三分真た

一 百六拾五匁

一丈六尺

本紅総角

式掛

一 十七匁

同いろ上り

組直し

一 壹匁五分

水むち紐

一掛

一 六拾匁

赤上糸総角

三掛

〆三百三匁四分四

鳥子屋又右衛門殿

五月九日

一 四匁五分 森下紙一帖

〃

一 貳匁九分 上くず一帖

〃

一 貳匁貳分 青とさ二帖

〃

一 貳分 同 四枚

〃

一 四分 同 八枚

一 四拾文 小奉書

一 三分 水引二わ

一 三分 せんくわ

〃 拾三匁七分 六枚

此セに合老貫四百四十三文

大坂屋九兵衛殿

五月廿四日

一 四十六匁貳分 備中表

正ミ 十八枚

此金三分

百八拾文

〃

〃

〃

〃

伏見

茨木屋惣兵衛殿

一 貳百五拾匁 牛持 一丁

〃 壹尺六寸

〃 八寸

一 八匁 長サ貳丈一尺

〃 貳百五拾八匁 なる丸太 貳丁

〃 此金四兩一分

〃 五匁九分

〃 五月廿九日済

〃

河原町

万足屋久兵衛殿

一 二百七十一匁

〃 牛持一丁

〃 長サ二丈壹尺

〃 壹尺六寸

〃 巾八寸

此金四兩貳分 六拾匁

百文

〃

井筒屋徳兵衛殿

一 綱引帷子

〃 十貳反

〃

〃

一 笠紐地

屏風屋治右衛門殿

一 左之内 籠戸下張一枚

一 左之内 幣紙合

手間料 卅六枚

一 左之内 右幣 仕立

手間料

正ミ十四匁

此セに壹貫五百文

千切屋治兵衛殿

付出し 丑秋買

一 百目

銀払 檜四分板

五坪

坂本屋惣兵衛殿

一 九百六拾匁

家台一式

塗師

一 金壹兩

右は津川伊兵衛 塗師増物

遣ス いろく

十二月廿八日

金拾三兩渡

代七百八拾匁

とら

三月二日

又 三兩

代百八拾匁

九百六拾匁済

藤屋権兵衛殿

一 九百七拾五匁

家台鏝

一式

打立共

一 金貳歩

仕増物

鉞 九ツ

しとゝめ 四ツ

犬の鈴

金幣金物

とら

三月二日

金拾三兩渡

代七百八拾匁

五月四日

又 三兩渡

代百八拾匁

上九百六拾匁

引残り拾五匁

代金壹歩

増金合三分也

〆廿八匁

代貳貫六百六拾文

五月分払

檜皮屋卯右衛門殿

五月分

一 拾匁 壹尺板

四束

一 壹匁

竹釘

一 三匁六分

手間

飯代共

〆拾四匁六分

代壹貫四百文

五月分払

手伝金四郎殿

五月分

一 十二人 手間

代貳貫貳百文

一 石炭 一俵六升

代三百六拾貳文

〆貳貫五百六拾文

五月分払

土屋平助殿

五月分

一 貳百廿文

払 砂土貳荷

会所取替物

五月分

一 八百拾六文 酒七升

〃

一 八十四文 とうふ

七丁

〃

一 三拾文 ふのり代

一 壹匁貳分 肴代

かます 拾枚也

〆九百廿四文

壹匁五分 此セに百廿文

合壹貫五拾四文渡

籠屋長右衛門殿

五月分

一 百四拾文 水引卷張下

籠 壹ツ

五月分払

千切屋七郎兵衛殿

四月仕立

一 五両貳分

金更紗水引

裏地共

此セに壹貫四百廿文

箔置師

升屋九郎兵衛殿

一 四拾三匁

銀正ミ 破風影板

四枚

五月分払 中焼切貫箔置

此金貳歩貳朱

セに六百文

瓦師市左衛門殿

五月分

一 六匁 大江戸平瓦

蔵用 廿枚

一 貳匁貳分 中江戸丸

十一本

一 七匁九分 並瓦 四拾一枚

からくた共

手間

一 十貳匁九分

飯代共 三人

此錢貳貫九百文

五月分払

津川伊兵衛殿

五月分

一 三分 幣紙卅六枚

両面箔下塗

一 壹貫貳百文

合羽押へ竹

五月三日払 廿三本

黒ぬり

大工七郎兵衛殿

三月廿七日より

五月三日迄

一 六拾貳人

代貳百四十八匁

此金四兩貳朱五拾文

外二壹貫廿八文 酒代

十六文かへ

五月分払

たわら屋左兵衛殿

五月分

一 十一匁五分 桐箱壹ツ

式尺三寸

式尺四寸

金弊入

一 十六匁五分

水引箱 壹ツ

式尺八寸

式尺五寸内乗り

深サ七寸

一 八百拾九匁

廿一日切

白地古金襴

四丈五寸

正ミ三丈九尺

内

正ミ 七百卅七匁壹分

内 卅三匁貳分早引

又拾五匁仕かけ引

生正ミ 六百八十八匁九分

伊三町

丹波屋重兵衛殿

四月十九日

一 七拾六匁五分

九拾匁廻し

かね精好

一丈三尺

糸八十五匁

〃

一 七拾三匁五分

百五匁廻り

浅黄くつわ綾

紫紋指貫代

糸七十

〃

一 百卅六匁五分

拾匁五分切

黒紅沙金

狩衣地

一丈三尺

正ミ尺也

一 百八十九匁

拾匁五分切

松重也沙金

水干地

正ミ一丈八尺

〆 四百七十五匁五分

内

正ミ四百廿七匁九分

内 十九匁三分早引

又 八匁貳分仕かけ引

生正ミ 四百匁四分

えちこ屋新兵衛殿

四月廿九日

一 廿七匁

十三匁五分かへ

正ミ

五月分払

赤木綿 貳疋

六月式日

一 十三匁五分

赤木綿 壹疋

堀川竹屋

四月六日

一 六匁五分

本尺竹 壹本

奥にて合

大坂喜八殿

四月廿八日

一 八匁九分 紺木綿 一反

正ミ

五月前払

金屋惣兵衛殿

四月廿六日

一 三分 紺木綿一反

はり

〃

一 歩 浅き絹一旦

刺貫地古

はり

〃

一 三分 同木綿一反

はり

〃

一 壹匁四分 五郎丸壹疋

はり

〃

一 式分 晒木綿

はり

七尺

一 三分 滝紋

落し白はり

〆式匁五分

正ミ式匁

代百八十五文

千切屋猪介殿

四月廿九日

一 廿九匁式分

正ミ 白木綿

壹人一反

五月廿八日 水引裏

一 九匁式分 浅き木綿

奥合 一丈四尺五寸

〆三拾九匁 壹丈六尺

千切屋九兵衛様

一 拾匁六分

正ミ 白布

三丈三寸

此セに壹貫百拾文 水引文

本法寺前町

井筒屋長左衛門殿

四月廿八日

極月廿八日済

寅春

一 文字屋久兵衛殿

取次

二月四日

一 十八匁 藤岡

壹疋

正み銀 さす物

相済 縫下絵地

たわらや左兵衛殿

一 三匁五分 八脚台壹ツ

此セに三百五拾文済

高嶋屋吉兵衛殿

一 廿三匁

此錢貳貫三百文 蔵押入戸

相済 五枚板手間代

あら物屋

一 百廿文 卷わらニ成

相済 わら一本

一 四文 のり代

本家店

千切屋吉右衛門殿

寅三月

〇一 廿八匁 生上高宮貳反

右赤ニ縁張施共

〇一 廿六匁貳分 白高宮貳反

もくらん

染代

一 五十八匁 生高宮拾反

正ノ百十貳匁貳分

此金一兩三分七百八拾文

一 文字屋久兵衛殿

寅三月

一 廿六匁六分 疋百四匁五分

五郎丸一疋

弘済 可尋 壹尺

鳥子屋又右衛門殿

四月五日

〇一 貳匁六分 ぐず

正ミ 二帖

奥ニて合

出雲屋五兵衛

一 壹匁四分 茶晒貳反

内 本つや

正ミ 壹匁壹分貳厘 はり代共

此セに 百拾文

一	しやぶかね	七本
一	代貳匁貳分	
一	平鉄物直し	四ツ
一	代四分	
一	大しやうふかね	壹本
一	代七分	
一	蝶つかい	十貳枚
	鋌 貳百本	
一	代八匁四分	
一	大打くき	十八本
	代三匁六分	
一	輪かけかね壺	八ツ
	代四分	
一	卷鉄物直し	貳枚
	代壹匁貳分	
	一寸鉄十六本共	
	八ふ鉄十三本	
一	真木車しん	一本
	くた 壹ツ	
	代四匁五分	
一	卷鉄物貳枚鋌廿六本	
一	金幣蝶つかい	四枚
	一寸貳分鋌七十本	
	代九匁	
一	ふうり鉄物	四ツ
	代六匁	
一	けぬき鉄物	壹ツ

	仕直し	
	代四分	
	鋌十本共	
一	三寸物頭卷	四十
	代壹匁四分	
一	きじせん	
	鷹のせん	貳本
	代五分	
一	置とこ	四ツ
	くわん	
	なおし	
	代三分	
	凡十石之メ斗	
	十二月廿二日	
一	次三寸	百本
	代壹匁四分	
一	本三寸	百本
	代壹匁貳分	
一	本四寸	五拾本
	代壹匁七分	
一	五本物	三十わ
	代九分三厘	
一	三本物	廿把
	代六分五厘	
	五百拾五匁 <small>七厘</small>	
	正ミ払也	
	代八両貳分五百文	

一 壹匁四分 同 三布
 一 壹匁 黒木綿 三布
 立幕 一張
 一 六分 赤木綿
 式布式反
 一 五分 白木綿 式反
 〆拾壹匁式分五厘
 内二わり引
 正ミ 九匁
 代七百四十八文
 極月廿八日済
 鍛冶屋二番
 一 蛭かき 四本
 代式匁式分
 一 すしかい当り 卅式枚
 すり鉢鉾 百七十本共
 代拾匁七分
 尤右鉄物用ひ仕多し
 一 屋根柱下巻鉄物 式ッ
 同直し用ひ 四ッ
 すり鉢鉾 五十本共
 代式匁式分

一 拾本物 廿
 代六分八厘
 一 七本物 廿
 代六分式厘
 一 本三寸 百本
 代壹匁式分
 一 次三寸 式百本
 代二匁式分
 一 本三寸 百本
 代壹匁式分
 一 次三寸 百本
 代壹匁四分
 一 棟鼻卷仕直し 六枚
 古を用ひ
 鉾 八十本
 代式匁式分
 一 合羽留やうし鉄物 三十式本
 割根
 代六匁四分
 一 輪かけかね 十三
 代三匁九分
 一 まと掛 八本
 ひるかき
 代五匁六分
 一 ひら木車 卅五
 但し九ふ
 代式匁五分五厘

式寸 壹丁

一 壹匁三分 長一丈壹尺

割とゆ壹枚

一 五分 末竹 拾本

主拾木匁八分

四十式匁八分

代四貫文

仕かけなし生正ミ積り之処

思ひ入違候木御座候故

仕かけにて負させ申候

極付廿九日済

洗物や

山城屋安兵衛殿

一 式分五厘 浅き絹

刺貫壹反

一 三分 赤木綿

水引裏

一 三分 同木綿壹反

一 三分 金巾広式布

一 六分 白更沙式反

一 壹匁 木綿十二切

一 壹匁 立幕廿一布

一 壹匁 白木綿

大巾

三反半

一 壹匁 同木綿

三反半

一 七分 広更沙

ふとん壹ツ

一 六分 同 壹ツ

二番付

八文字屋弥兵衛殿

十一月五日

一 百六拾八匁

緋木綿^{廿四匁かへ} 七反

生正みさし

松紐隠し二成

払

大坂

木綿屋喜八殿

十五日

一 四十六匁九分

三匁九分かへ

生布十式反

生正みさし

四方合羽裏二成

此金三步式匁 生正ミ渡

相済

山城や安兵衛式番

一 七分 さら沙

- 代五匁式分
- 一 一寸五分平打掛 四ツ
- 代式匁八分
- 一 二重折釘直し 六本
- 代五分
- 一 ふくり鉄物 式ツ
- はねせん共
- 代式匁六分
- 奥二番付
- 小買物口
- 御池 はりまや五兵衛殿
- 一 壹貫文
- 簾 一枚
- かき房
- 渡相済
- 会所取替もの
- 一 二百廿式文 酒式升
- 一 四拾文 たうふ四丁
- 十月廿九日相済
- 鳥子屋又右衛門殿
- 一 六匁
- 御幣下地紙 六拾枚
- 正ミ 美濃次第紙也
- 一 壹匁三分 ミの紙 一帖

- ぬし方取替
- 〆七匁三分
- 釜ノ座
- 坂本屋清右衛門殿
- 十一月九日
- 一 十五匁六分五厘
- 式 六分かへ
- 楓くれ
- 甘本
- 長サ七尺五寸 六分かへ
- 巾 五寸
- 厚サ八分
- 右舞台板二成
- 生正ミ
- 内八尺十三本 六分五厘かへ
- 又式間物式本 壹匁五分かへ
- 一 四匁八分 松式間四ツ割
- 九匁 三十
- 〇一 五匁九分 三匁三分かへ
- 同式間
- 本四ツ割 三丁
- 上木
- 一 三匁式分 同式間 式丁
- 四ツ割
- 一 式匁五分 同式間
- 四寸八分 壹丁
- 五
- 一 主匁 同二間
- 式寸五分

一	見送り掛車	式ツ
	本之通割根	
	座鉄物付	
	代八匁	
一	水引懸蛙鍵	五ツ
	本之通	
	代三匁五分	
一	同鼻弦	十五
	代三匁	
一	同二重打釘	十
	本之通わり根	
	代五匁	
一	前幕掛二重打釘	廿三本
	本之通わり根	
	代拾六匁五分	
一	同後水引掛	五拾二本
	本之通わり根	
	代廿六匁四分	
一	屋根細鉄物	廿四本
	蛙かき本之通	
	代十六匁八分	
一	三本物	五十
	代壹匁五分五厘	
一	拾本物	三十
	代壹匁貳分	
一	七本物	三十
	代九分三厘	

一	両つめ打掛鉄物	式本
	長サ四尺壹寸五分	
	代十九匁五分	
一	同真木打掛	四本
	長サ貳尺一寸五分	
	代廿一匁七分	
	長サ三尺	
一	後柱つなき鉄物	
	ふくりはねせん共	
	代三匁	
一	柱舞台つき	四枚
	長サ四寸	
	巾貳寸貳分二方	
	すり鉢鋌 七十	
	代十式匁	
一	屋根棟しまり	壹本
	まんちう鉄物	
	座貳枚せん共	
	代貳匁五分	
一	輪かけかね	四ツ
	代三匁六分	
一	柱足留鉄物	六ツ
	代十九匁貳分	
	鋌六十五本共	
	ふくり鉄物	
一	やうしかね共	四ツ
	はねせん付	

一	後柱上巻鉄物	二ツ
	本之通念入	
	代三匁	
一	中柱桁取附	二枚
	但し老枚へ表一枚へ裏	
	代老匁四分	
一	後桁下八座	二枚
	本之通すり鉢鉾	
	代老匁四分	
一	前屋根梁座	四枚
	代式匁四分	
	仕様同断	
一	同 中梁	四枚
	代式匁四分	
	仕様同断	
一	軒留ノ座後共	二枚
	すり鉢鉾	
	代八分	
一	後屋根軒とゆ座	二枚
	仕様同断	
	代八分	
一	前軒	四枚
	但し内二枚へ表作り	
	二枚へ裏作り	
	代式匁四分	
一	屋根留軒鉄物	十
	本之通やうしかね	廿本

	但し割根	
	せん	十本
	代拾五匁	
一	上棟合羽押 ^江	四本
	但し二寸式分	二
	二寸七分	二
	代四匁	
一	後屋根棟留メ鉄物	一本
	はねせんつほ付	
	代老匁式分	
一	後窓ヅリ鉄物	四本
	はねせん付	
	代四匁	
一	同	四ツ
	わり根せん付	
	代三匁六分	
一	屋根留鉄物	十六
	本之通せん付	
	つぼ付	
	代十式匁式分	
一	同	十
	右同断本之通	
	代八匁	
一	屋根棟 ^ノ 鉄物	三本
	座鉄物	廿四枚
	丸せん	六本
	代拾五匁三分	

梁桁ノ引合鉄物也

一 両打掛鉄物 四丁

長サ 貳尺四寸

巾 六分

厚サ 三分

但し打貫壺付

同断

一 同 十二丁

長サ 壹尺

巾 五分

厚サ 貳分半 仕様同断

一 同

長サ 九寸

巾 同断

厚サ 仕様同断

右三口代四拾四匁貳分

一 柱継手鉄物 十二筒

高サ 貳寸五分

内乗り 貳寸貳分角

代 廿七匁六分

棟木楊子かね

繪本之通さくり鉄付 五本

代 三匁五分

破風貫^レ鉄物

三丁

但シ四分角

長サ 四寸五分

引通し鉄物 四丁付

代 七匁五分

一 ふらり鉄物

長サ 四寸五分

はねせん付

やうしかね付

一 同

長サ 貳寸五分

やうしかね付

はねせん付

一 同

長サ 貳寸

やうしかね付

はねせん付

右三口代 廿七匁五分

九月廿六日

一 後中梁^リ座

巾 二枚裏表作り

すり鉢鉾共

代 三匁貳分

一 後裏梁^リ座

仕様右同断

代 壹匁四分

二丁

十六丁

十丁

四枚

二枚

外ニ錢壹貫文渡酒代也

右二口差引して

手間料 拾九匁式分過上

酒代 百廿人分渡

差引して八人前不足かり

十月廿九日

霜月朔日より極月廿五日迄

一 九拾貳人 四匁かへ

代三百六十八匁

内拾九匁式分過上引

引残り三百四十八匁式分

此金五兩三歩ト 六拾匁かへ

セニ三百八拾文

八月三日より工数 貳百廿人

此酒代 三貫六百六十四文

内貳貫文渡

同残り壹貫六百六十四文渡

極月廿八日済

寅春

二月朔日二日

一 貳人

代八匁 酒代六十文かへ
合世貳文

此セに八百七十式文

三月前払

一 三匁 蔵取付はしこ

此セに三百文

丸太代

三月前払

鍛冶方
正味銀 坂本屋与兵衛殿
八月廿日より

一 拾本物 代三分四厘 百本

廿七日

一 次三寸 代壹匁四分 百本

一 五本物 代九分三厘 百五拾本

一 七本物 百四十

かしら巻 代七分

廿八日

一 三本物 代六分式厘 六十

一 拾本物 代六分式厘 貳百

九月二日

一 次三寸 代壹匁四分 百本

九月六日

一 次四寸 代貳匁四分 百本

同

一 本三寸 代壹匁八分 百本

九月十三日 柱桁請鉄物 四ヶ所

卷鉄物本之通 四ツ

平鉄物本之通 四ツ

かすかい 本之通 八ツ

代 三拾三匁六分

一 壹匁壹歩 かれ 一枚
銀代共

錢ノ三百八十七文

別ニ貳貫文渡

大工 炭代

茶料共

極月廿八日渡濟

堀川木挽彦兵衛殿

一 三拾四匁九歩

牛持小割

挽手間

代金貳分

四百五拾文渡相濟

手伝 金四郎

九月十日

一 四人

代七百卅貳文渡濟

堀川高嶋屋吉兵衛殿

一 七拾四匁六歩

屋根戸板仕掛

十四枚

木取手間共

一 拾四匁

見送り箱 壹ツ

長サ七尺五寸

大キサ五寸二六寸

かふせふた

一 四百八拾文

右金釘代

ノ八十八匁壹歩

代壹兩一分五百文

外ニ四百五拾文釘代 相濟

十月廿九日

大工三藤屋七郎兵衛殿

安兵衛

八月三日より

一 五拾四人半

九月七日迄

飯料共
正ニ銀四匁かへ改
酒代十六文宛渡

代貳百拾八匁

五十八匁八分

此処へ金四兩渡代貳百卅五匁貳分

外ニ錢壹貫文 酒代渡

但し六十人前也

九月十八日より

一 七拾三人半

十月廿八日迄

代貳百九拾四匁 四匁かへ

此処へ金五兩渡 五十九匁貳分

代貳百九十六匁

尾州檜四分板

壹尺貳寸二長サ六尺四寸

廿七枚

坪数四坪八分也

堀川 神崎屋利兵衛殿

八月廿三日

一 壹両壹分

紫辰殿階檀古木

尾州正目檜木也

長サ 一丈三尺

幅 壹尺

厚サ 六寸五分

さし金 相濟

堀川木挽彦兵衛殿

一 拾壹匁四歩

右小割挽手間

九月八日

代壹貫百四拾文渡濟

神崎屋利兵衛殿

十月十二日

一 壹両三分貳朱

御城本丸橋檜

長サ 壹丈三尺

幅 壹尺貳寸

厚サ 壹尺三寸

壹本

右土州檜也

さし金相濟

同人

一 壹分

相濟 右小割

挽手間

丸太町大坂屋

一 五匁五歩

五百文

代四匁五十七文

極月廿八日濟

長サ八尺

幅 六寸

厚サ貳分

真木足かため二成

手伝 金四郎

十一月廿三日

一 五人

代九百十六文

極月廿八日濟

町藤之扣もの

一 貳百卅貳文

一 四十五文

酒貳升

やきたうふ 十五

後日一札仍而如件

七日船鉾

安永五^丙年
甲^二

北袋屋町

六月日

年寄 又兵衛(印)

南袋屋町

年寄 忠助(印)

鷹山町

年寄吉兵衛殿

町中参

〔文献8〕

史料名 「鷹山家台修復」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・8102

時代 天明元年(一七八一)六月吉日

形態 横帳

員数 1冊

所蔵 京都府立京都学・歴史館

所収 同志社大学人文科学研究所『祇園会山鉾「鷹山」関係資料(下)』

―京・三条衣棚町文書― 昭和四十六年

鷹山屋台修復

〔表紙〕

天明元歳

左官屋根方

畳さし

張附師

鷹山

材木方

鍛冶方

人形師

綿布方

木挽方

塗師方

縫師

小買物

家台

大工方

鋳師

組物方

雑用方

戸細工

箔置師

仕立方

手伝方

修復

指物方

合羽師

苧縄師

裏二

出入之扣

六月吉日

はり物屋

洗物屋

藍染屋

中町木曾屋喜助

六月十八日

一 式百五拾匁

尾州檜木

長サ一丈三尺

厚サ壹尺貳寸

幅 壹尺四寸

壹本

銀正ミさし

七月三日渡済

富小路木挽平七殿

六月廿一日より

一 四拾六匁七歩三厘

古小割

いろく廻し挽共

生正ミ銀

七月十三日

三步百七十三文渡済

千切屋治兵衛殿

六月廿七日

一

- 一 正味三拾五匁六分 千切屋七兵衛方にて
金寄房代
- 一 正味拾七匁 同人
右上細工手間代
- 一 正味三匁九分 千切屋七郎兵衛方にて
紅ちりめん細物代
- 一 正味三匁五分 千切屋次兵衛方にて
黒びろうど布代
- 一 正味八匁 金もの代
房がけ
- 一 正味三拾五匁 いつもや藤四郎方にて
見送り仕立代
- 一 正味四匁六分 見送り巻真
かみ代払
- 一 正味拾貳匁六分 縫物やへ遣し物
又 六匁五分 酒肴代払
貳百四拾匁貳分
又百八匁七分 見送り縫代 不足也
又三拾貳匁 松屋源兵衛 増也

三口合 三百八拾匁九分也

一 拾九匁貳分 津国屋九郎兵衛 箱代

一 九匁八分 千切屋吉右衛門

かゝ□貳丈五寸

金さし

又合四百九匁九分

内金壺歩代拾六匁 寄付引

惣引残り 三百九拾三匁九分

町中より払

〔文献7〕

史料名 「車新調代銀二ツ割証文」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・7982

時代 安永五年（一七七六）六月

形態 状

員数 1通

所蔵 京都府立京都学・歴史館

所収 同志社大学人文科学研究所『祇園会山鉾「鷹山」関係資料（下）

―京・三条衣棚町文書―』昭和四十六年

一 札之事

一 此度両町山鉾車前後四枚新車為致候、右代銀諸雜用等二ツ割二仕、相払申候処実正也、此以後永々右之車四枚、何れニ而茂損申候ハ、其元御町立合相談之上修覆仕、則代銀二ツ割二仕可申候、為

〔下略〕

〔文献6〕

史料名 「見送り縫寄附帳」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・8098

時代 明和三年（一七六六）六月吉日

形態 縦帳

員数 1冊

所蔵 京都府立京都学・歴史館

所収 同志社大学人文科学研究所『祇園会山鉾「鷹山」関係資料（下）

―京・三条衣棚町文書―』昭和四十六年

見送縫寄附帳

〔表紙〕

「明和三丙戌六月吉日

見送り縫

寄附帳

鷹山町

一金子貳百匹 鍵屋弥兵衛 店中

一同 五百匹 千切屋吉右衛門 店中

一同 五百匹 野沓屋吉兵衛 店中

一金子 千匹 膝屋次兵衛 店中

一同 貳百匹 同 伊助 店中

一同 五百匹 井筒屋徳兵衛 店中

一同 貳百匹 十一屋伝兵衛 店中

一同 貳百匹 壺屋亦兵衛 店中

一同 三百匹 膝屋九兵衛 店中

一金子 百匹 膝屋九郎兵衛

一同 百匹 西村や四郎右衛門

一同 百匹 膝屋善兵衛

一同 百匹 同 七兵衛

一同 百匹 同 七郎兵衛

〆 拾両壹分

一同 百匹 近江屋小兵衛

一 壹貫目 油小路三条上ル町

松屋源兵衛方にて詠江

見送りへり縫代

内式わり引

正味八百匁

此金拾壹兩三分 金三匁仕掛

半銀拾 貳匁七分

右之内拾兩壹分 寄附引

引残り壹兩貳分 拾貳匁七分 不そく

〆 百八匁七分

笹屋伝右衛門方にて

金笹へり貳丈貳尺

壹匁七分五厘切

紅屋彦兵衛方にて

見送り下房

正味七拾五匁

糸め三百廿八匁かせ上ケ

- 一 舞台板 七枚
- 一 大貫 式本
- 一 同長 式本
- 一 中貫 式本
- 一 同長 式本
- 一 拔 四本
- 一 称た 四本
- 一 改内式本はりけた
- 一 埒持セ 四本
- 一 改
- 一 四本柱 四本
- 一 松持セ 壹本
- 一 がつしやう 八本
- 一 はしこ持セ 壹本
- 一 はしこ 壹丁
- 一 小はしこ 壹丁
- 一 らち 十六本
- 一 改六本 又四本
- 一 又角柱四本
- 一 繩すり 式本
- 一 あせり 式本
- 一 あせり持セ 式本
- 一 ほら竹 壹束
- 一 下台垣竹 四くゝり

- 一 同繩あみ竹 四本
- 一 松の足留メ 式本
- 一 洞籠 ひれ共七枚

「一」も「ハ」 式丁」〔異筆〕

山立松寸尺覚

惣長ケ 五間三尺余

身木 式間式尺

枝付 三間壹尺

本口さし渡し七寸余

新町通一条下ル丁 植木や善兵衛

山牛物寸尺



惣長ケ サ 壹丈八尺八寸五分

厚サ 六寸 金物共

幅 壹尺貳寸七分

山舞台 尺 金さし

前後 七尺七寸

南北 壹丈七寸

宝曆八年寅六月相定

永代預物覚

- 一 紺地龍水引
- 一 金地菊画水引

一 獅子見送箱 壹ツ

但赤地向獅子中水引共

赤地檜扇末幕壹ツ

右千切屋吉右衛門預

- 一 縫花鳥見送箱壹ツ

右野沓屋吉兵衛預

- 一 鳳凰水引箱壹ツ

右千切屋治兵衛預

- 一 太鼓三ツ 鉦七丁

但太鼓台 貳ツ
どう共

右十一屋伝兵衛預

- 一 衣装箱壹ツ

右井筒屋徳兵衛預

- 一 金幣箱壹ツ

一 丁ちん入かわご貳ツ

右壺屋又兵衛預

宝曆九年卯六月十五日

- 一 総角色ヲ入箱 壹ツ

外ニおんどとりかたひら入柳こり一

右鱗形屋吉右衛門預

夷や伊兵衛

寛政五
子六月
十五日
千切屋九兵衛預

明和三年戌木月十五日分

明和五子六月

- 一 花色総角箱

夷屋伊兵衛

右千切屋九兵衛預

安永四年未六月

- 一 丁ちん入かわご 貳

右鍵屋弥兵衛預ケ

千切屋〔この行、貼紙で抹消〕

安永七戌六月日

- 一 多ほうし箱 壹ツ

右千切屋猪助預り

四条道場預ケ之覚

- 一 牛棒(持カ) 貳本

一 南ナ古キキキ 貳本

一 ことね木(ほカ) 貳本

ノ

土蔵入置道具覚

- 一 らんかん 四枚

一 丑卯横かミ 貳本

着す。左右の手に繩をもつ。大八山の上松の右にのほり居る。○屋根 鷹つかひと犬つかひの上にある。洞の衣しやうハ鷲いろ朝鮮にしき水干赤地の紗巾さしぬき浅黄純子 所にてはやねなし。正面総角あり。○

上水引 紅地にしき丸龍。○下水引 紺地浪龍の紅地にしき花扇。○前毯 花氈阿蘭陀物びらうどのごとし。○胴幕 三方とも綴氈縁ハ狸々緋。

○見送 唐縫唐しし。又獅子吼の三字金糸にて縫。此外二種有。一種ハ鳥づくし。惣ぬひ紅にしき、縁付。又一種茶地にしき木瓜龍黒天鷲絨へりつき。

寄町 三条通新町 衣棚町南側。三条釜座町南側。天性寺前町。下本能

寺前町。寺町三条上ル三丁目 本能寺前町。寺町三条四丁目 妙満寺前町。

〔文献5〕

史料名 「預物・蔵入置物留帳」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・8097

時代 宝暦八年（一七五八）六月

形態 横帳

員数 1冊

所蔵 京都府立京都学・歴史館

所収 同志社大学人文科学研究所『祇園会山録「鷹山」関係資料（下）

―京・三条衣棚町文書―昭和四十六年

寄町之覚

〔中略〕

払米之覚

〔中略〕

土蔵入置箱類覚

一 御首箱 壺ツ

一 氈箱式枚入 式ツ

合テ四ツ

一 小道具赤氈入 壺ツ

一 衣装箱 壺ツ

一 塗ふち箱 壺ツ

一 日覆箱 壺ツ

一 中長持 壺棹

一 樽負殿台 壺ツ

○ 改

一 はしこ持セ 壺本

一 せん箱 壺ツ

一 ほら持セ入有

一 繩引挺子卅入 壺包

一 燈灯箱 壺ツ

一 新緒綱 壺筋

一 幕竹 五本

一 かね釣竹

一 より棒 十七本

一 合羽入箱 壺ツ

一 頭入預り

一 新衣装箱 壺ツ

一 新見送り 壺箱入

一 但し金幣開箱木

野番屋市兵衛殿預置

- 一 鷹山かさり物覚
- 一 鷹つかいの人形 一箇
- 一 但し狩衣ひわ色紗金、小袖紺地朝鮮錦刺貫、紋白、腰帯縹子金置紋石の
- 一 犬つかいの人形 一箇
- 一 但水干かは色紗金、小袖鶯色朝鮮錦、刺貫萌黄純子、腰帯金入石の
- 一 樽負の人形 一箇
- 一 但水干かは色紗金、小袖、腰帯右同事
- 一 犬 一箇
- 一 雉 一箇
- 一 金幣 十本 一對
- 一 日覆之水引、紅地丸龍紋錦
- 一 舞台掛水引、紺地龍紋錦
- 一 同間の水引、紅地檜扇紋錦
- 一 同下掛幕、唐花せん
- 一 但縁猩々緋
- 一 洞つゝ見、形付猩々緋(肩カ)
- 一 見送 茶地龍紋ゑそ錦
- 一 但シ縁黒ひろうど
- 一 下ふさ紅より糸
- 一 以上
- 六月廿七日 衣棚北町

〔異筆〕
「宝曆六年丙子年」

〔文献4〕

史料名 『祇園会細記』

時代 宝曆七年（一七五七）

形態 版本

員数 3冊

所蔵 京都大学附属図書館（底本）、京都府立京都学・歴史館等

所収 藝能史研究会『日本庶民文化史料集成』第二巻、

三一書房、昭和四十九年

「山鉾由来記」

鷹山 三条新町
東へ入町

鷹狩の体を風流に作りなしたる也、鷹つかひ犬つかいの人形あり、又一

人の従者樽を負手に粽を持って食ふ有さまおかしげなり、故太良山とも

樽負山ともいふ

古歌に

たつとりの人を引こす落草に 犬よびかはしあさる狩人

「祇園御霊会細記」

鷹山 三条新町東入北側衣棚町
又太郎山 樽負山ともいふ

〔附〕人形樽負 山の左り後の方に有。年来四十歳ばかりの男侍ゑぼしを着左右の手に
は大粽をもつ也。衣装鶯色朝鮮にしき、上に水干栗皮いろの紗巾。○鷹遣 山の左りはしに

むかひ合。年比六十歳ばかりの男、侍ゑぼしを着し、左に鷹を居右の手に餌かひ
を持。衣装ハ紺地の朝鮮にしき狩きぬひわ茶紗巾あさぎ八ッ筋入さし貫を着す。○犬使 山の右の方にゐる。年比
三十歳斗の男侍ゑぼしを

〔文献1〕

史料名 「祇園会山鉾事」(祇園社記二五)

史料群名 八坂神社文書

時代 永祿三年(一五六〇)

形態 縦帳

員数 1冊

所蔵 八坂神社

所収 八坂神社文書編纂委員会『新編八坂神社記録』

臨川書店、平成二十八年

祇園会山(鉾)ほくの次第

〔中略〕

十四日

忘仁乱前分

〔中略〕

一 鷹(使)つかひ山

三条室町と西洞院間

〔中略〕

祇園会山鉾次第以鬪定之 明応九六六

〔中略〕

十番 たか山三条町と室町との間也

〔中略〕

六月十二日鬪次第

(松田) 頼亮

明応九六十四

〔中略〕

一 鷹山 三条室町西洞院の間二町

〔下略〕

〔文献2〕

史料名 『祇園祭会図偈』

時代 正徳六年(一七二六)

形態 版本

員数 1冊

所蔵 刈谷市中央図書館、個人

鷹山

鷹山ハ在リ三三条街ニ 西ハ接ニ新町街ニ 摸ト人放ツ鷹ヲ於野ニ之様ヲ
東ハ接ニ室町街ニ

偈日

奇哉功作 有人放鷹ヲ 人ヤ也鷹ヤ也

俱ニ有リ威稜一人ハ期シ放テ去シコヲ鷹ハ欲ニ飛ヒ騰フシト

何レ止搏レ獸ヲ 又要ス制セント鵬ヲ 模シ得テ其ノ状

令置ク此ノ棚ニ 觀者咸謂 維ノ神ノ所ト憑ル

〔文献3〕

史料名 「鷹山かざり物覚」

史料群名 三条衣棚町文書

史料番号 館古531・7975

時代 宝暦六年(一七五六) 六月二十七日

形態 状

員数 1通

所蔵 京都府立京都学・歴史館

所収 同志社大学人文科学研究所『祇園会山鉾「鷹山」関係資料(上)』

—京・三条衣棚町文書—昭和四十五年

(2) 鷹山に関する文献史料

目次

文献 1	「祇園会山鉾事」永禄 3 年 (1560)	(1) 179
文献 2	『祇園祭会図偈』正徳 6 年 (1716)	(1) 179
文献 3	「鷹山かざり物覚」〈三条衣棚 7975〉宝暦 6 年 (1756)	(1) 179
文献 4	『祇園会細記』宝暦 7 年 (1757)	(2) 178
文献 5	「預物・蔵入置物留帳」〈三条衣棚 8097〉宝暦 8 年 (1758)	(3) 177
文献 6	「見送り縫寄附帳」〈三条衣棚 8098〉明和 3 年 (1766)	(6) 174
文献 7	「車新調代銀二ツ割証文」〈三条衣棚 7982〉安永 5 年 (1776)	(7) 173
文献 8	「鷹山家台修復」〈三条衣棚 8102〉天明元年 (1781)	(8) 172
文献 9	「祇園会入払帳」〈三条衣棚 8096〉天明元年 (1782)	(36) 144
文献 10	「鷹山人形・飾付一式覚」〈三条衣棚 8103〉天明 2 年 (1782)	(37) 143
文献 11	「鷹山人形・飾付一式覚」〈三条衣棚 8105〉天明 5 年 (1785)	(37) 143
文献 12	「鷹山飴付書上」〈三条衣棚 7995〉寛政 5 年 (1793)	(38) 142
文献 13	『祇園会山飾附品』寛政 5 年 (1793)	(39) 141
文献 14	「口上覚」〈三条衣棚 8109〉寛政 10 年 (1798)	(39) 141
文献 15	「山飾附之事」〈三条衣棚 8111〉享和 3 年 (1803)	(40) 140
文献 16	『増補祇園御霊会細記 参』文化 11 年 (1814)	(40) 140
文献 17	『祇園会山鉾装鈔』(十四日部) 文政元年 (1818)	(41) 139
文献 18	「鷹山屋根塗一式ほか取替届書案」〈三条衣棚 8002〉文政 3 年 (1820)	(42) 138
文献 19	「鷹山屋根塗一式ほか取替届書案」〈三条衣棚 8003〉文政 3 年 (1820)	(43) 137
文献 20	「鷹山破損につき口上書」〈三条衣棚 8122〉文政 10 年 (1827)	(43) 137
文献 21	『祇園山鉾書 (人)』文政 10 年 (1827)	(44) 136
文献 22	「鷹山御神体人形図」天保 2 年 (1831)	(44) 136
文献 23	「鷹匠人形他一式覚」〈三条衣棚 8126〉天保 3 年 (1832)	(47) 133
文献 24	「鷹匠人形他一式覚」〈三条衣棚 8125〉天保 3 年 (1832)	(48) 132
文献 25	「祇園会神事当家式目」〈三条衣棚 8117〉文化 6 年 (1809) 以降	(49) 131
文献 26	「鷹山道具類預り覚帳」〈三条衣棚 8135〉未詳	(52) 128
文献 27	「鷹山修復中神事省略願書」〈三条衣棚 8051〉未詳	(58) 122
文献 28	「人形樽負殿ノ由来下書」〈三条衣棚 8137〉未詳	(58) 122
文献 29	『祇園会鉾記』未詳	(59) 121

京都府立京都学・歴史館所蔵「三条衣棚町文書」(館古 531) に属する文書については、文書名の後に〈三条衣棚 (文書番号)〉と記した。

(3) 御神体人形意匠対照表

		【文献3】 宝暦6年(1756) 「鷹山かざり物覚」	【文献4】 宝暦7年(1757) 『祇園会細記』	【文献10・11】 天明2年(1782) 天明5年(1785) 「鷹山人形・飾付一式覚」	【文献12】 寛政5年(1793) 「鷹山鋳付書上」	【文献13】 寛政5年(1793) 『祇園会山鉾飾附品』	【文献16】 文化11年(1814) 『増補 祇園御霊会祭記 参』	
鷹造	衣装	小袖	紺地朝鮮錦	紺地の朝鮮にしき			紺地朝鮮錦	
		袴	指貫文白	あさぎ八ツ藤のさし貫	指貫浅黄地茶唐草	刺貫浅黄地茶唐草	刺貫浅黄地口茶	あさぎ八ツ藤さし貫
		上着	狩衣ひわ色紗金	狩衣ひわ茶紗巾	狩衣紗金黒紅鴉番絵	狩衣紗金黒紅鴉番絵模様	狩衣黒紅色紗金模様鴉番絵	狩衣紺地紗金
		腰帯	腰帯罇子金置紋					
		袴						
	烏帽子		折烏帽子				烏帽子	
	ほか	鷹						
中啓								
籠								
樽負	衣装	小袖	小袖鶯色朝鮮錦	鶯色朝鮮にしき			鶯色朝鮮錦	
		袴			袴綾嶋	嶋綾袴	嶋綾袴	下ばかま
		上着	水干かほ色紗金	水干栗皮いろの紗巾	水干紗金松重鴉番絵	水干紗金松重色鴉番絵	水干松重色紗金鴉番絵模様水干	萌黄地紗金水干
		腰帯	石の帯金入					
		袴						
	烏帽子		侍烏帽子				烏帽子	
	ほか	中啓						
大遣	衣装	小袖	小袖鶯色朝鮮錦	鶯色朝鮮にしき			鶯色朝鮮錦	
		袴	指貫萌黄純子	さしぬき浅黄純子	袴うね精好茶裳濃	袴うね織情好茶裳濃	袴口好茶裳濃	下袴
		上着	水干かほ色紗金	水干赤地の紗巾	水干紗金松重鴉番絵	水干紗金松重色鴉番絵	水干松重色紗金鴉番絵模様	萌黄地紗金水干
		腰帯	石の帯金入					
		袴						
	烏帽子		侍烏帽子				烏帽子	
	ほか	中啓						

天明2年(1782) 山新調、後屋台を付けて巡行 【文献8】 (衣8102)	天明8年(1788) 天明の大火で罹災 以後鼻山にて巡行 【文献17】	寛政10年(1798) 曳山に復する。屋根形は天明2年の形式を踏襲 【文献14】 (衣8109)	文化7年(1810) 前後家台の形式を廃し、大屋根に 【文献23, 24】 (衣8125, 8126)
---	---	---	--

【文献25】 文化6年(1809)以降 「祇園会神事当座式目」	
木綿胴着	式ツ
紺地朝鮮錦小袖	老
鶯色地同	老
黒紅鴉番狩衣	老領
松重色水干	式領
袴付	三ツ
織指貫	老
石帯	三
裾裳袴	老
柳條綾袴	老
木綿下結	三
白地雲龍錦	老
古狩衣水干	三領
	子年改飾
朱珍指貫	老領
古小袖	三着

凡例

- 一、[]内、史料番号は、文献史料集の史料番号に対応する。
- 一、[文献 22]については、絵画の注記であるため、絵画としての情報を総合して記した。
- 一、本表は、京都市文化財保護課 山下絵美が作成した。

【文献17】 文政元年(1818) 『祇園会山鉾装鈔』	【文献21】 文政10年(1827) 『祇園山鉾書』(人) (六角町文書)	【文献22】 天保2年(1831) 『鷹山御神体人形図』	【文献23・24】 天保3年(1832) 『鷹匠人形他一式覽』	— 昭和47年(1972) 京都市文化観光局文化財保護課発行『祇園祭山鉾由緒及びその付属品目録第三集(五基分)』昭和47年3月	— 平成19年(2007) 調査
紺地朝鮮錦	紺地朝鮮錦	紺地宝尽文様錦裏吹(袖口黒)	紺地楽器模様朝鮮錦着附	白木綿地朽木松竹梅墨摺文小袖	白木綿地朽木に飛鷹文様青墨色摺染
浅黄八ツ藤サシメキ	浅キ八ツ藤ノ差貫	浅黄地丁字立脇文様綾刺貫	浅黄丁字立脇(分)綾	白木綿地朽木墨摺文袴	白木綿地八ツ藤丸ノ丸文様墨色木版染袴
紺地紗金狩衣	狩衣ヒツ茶	葡萄酒地鷲丸文様金襴狩衣(露白)	黒紅鸚鵡丸金沙(紗)	白木綿地朽木オム墨摺文狩衣	白麻地抱鸚鵡ノ丸文様青紫色摺染狩衣(単衣)
		白木綿、垂部は白金襴木瓜文様		帯	
		赤		萌黄緞子掛衿	浅窓色絹結地掛衿
折烏帽子	折烏帽子	烏帽子、紫紐		風折烏帽子	風折烏帽子(紫染丸打房付組掛衿付)
				木彫胡粉彩色鷹	木彫胡粉彩色鷹(朱房紐付)
				花の丸文黒骨蒔絵付	花の丸文黒骨蒔絵付(朱房紐付)
				竹編製 入意	竹編製(紫・白色燃紐付)
鶯色朝鮮錦		煤竹茶朝鮮裏吹錦花ニチリクモ丸龍模様、袖口黒	鶯色雲丸龍朝鮮錦着附	白木綿地朽木墨摺文小袖	白麻地朽木に松竹梅文様紫色摺染
下袴		茶白萌黄ホノ差貫白水、木瓜文様	柳条綾	白木綿地朽木墨摺文袴	白麻地朽木文様紫紺色摺染直垂袴
水干萌黄地紗金		萌黄地鸚鵡丸文様金襴箔金襴	萌黄鸚鵡丸金沙(紗)	白木綿地抱オオム墨摺文直衣上	白麻地抱鸚鵡丸文様墨摺染直垂
		白木綿、垂部は紺菊桐唐草古出		帯	
		〔下着〕白地惣金本金錦襦〔襦袢〕赤袴		萌黄緞子掛衿	萌黄緞子掛衿
侍烏帽子	侍烏帽子	烏帽子(舟形)、萌黄組紐、後紐萌黄、「此紐」花色と白武筋		侍烏帽子	侍烏帽子
鶯色朝鮮錦	朝鮮錦キ	煤竹茶朝鮮裏吹(袖口黒)	鶯色雲丸龍朝鮮錦着附	白木綿地雲龍丸墨摺文小袖	白木綿地雲龍丸文様墨摺染
下袴	指貫浅キ純子	緋ヒトエ丁子引裾黒袴秋仲模様袴	白宇根織裾紫水干	白木綿地八ツ藤墨摺文袴	白木綿地朽木文様墨色木版染直垂袴
水干萌黄地紗金	赤地水干	薄萌黄地鸚鵡丸文様焼箔金襴水干	萌黄鸚鵡丸金沙(紗)	白木綿地抱オオム墨摺文直衣上	白木綿地抱鸚鵡文様青紫色摺染直垂
		白木綿、垂部は紺菊桐唐草古手		同共裂当帯	同共裂当帯
				萌黄緞子掛衿	萌黄色掛衿
侍烏帽子	侍烏帽子			侍烏帽子	侍烏帽子
		金地若松ニ白梅ノ画			

文政3年(1820) 屋根塗・金物・二番水引・欄縁・総角・房掛を新調 【文献18, 19】	文政10年(1827) 休み山に
---	---------------------

【文献26】 年未詳 『鷹山道具類預り覚帳』	
井筒屋徳兵衛預り	
衣装箱	
一古狩衣水干	七
一古刺貫袴	五
一綾嶋古切	老切
一古小袖	三
一紙入	式
一石帯	四
一木綿脇着	式
一紺地朝せん錦小袖	一
一鶯色同	式
一黒紅紗金狩衣	一
一松重同水干	式
一糸り付	三組
一石帯	三
一綾刺貫	老
一すそご袴	一
一綾露袴	一
一木綿下ぐくり	三
一白地金乱床懸水引	老

(4) 懸装品意匠対照表

		[文献3] 宝暦6年(1756) 『鷹山かざり物覚』	[文献4] 宝暦7年(1757) 『祇園会細記』	[文献10・11] 天明2年(1782) 天明5年(1785) 『鷹山人形・飾付一式覚』	「祇園会入払帳」 (三条衣棚8104) のうち 天明7年(1787)	[文献12] 寛政5年(1793) 『鷹山飾付書上』	[文献13] 寛政5年(1793) 『祇園会山鉾飾附品』
染織品	天水引	前屋台	紅地丸龍紋錦	紅地にしき丸龍	猩々緋雲王之縫 鰲山禪師之画		
		後屋台			金花布		
	一番水引	紺地龍紋錦	紺地浪龍のにしき	紺地瀧龍蝦夷織		紺地瀧龍蝦夷織	紺地瀧龍蝦夷錦
	二番水引	紅地檜扇紋錦	紅地にしき花扇	金地百花菊之唐織			
	三番水引			白地大内古金襴形			
	房	見送下:紅より糸					
	前懸		花氈阿蘭陀惣びらうど のごとし	毛織り天鷲織花氈 緑猩々緋縫		毛織り天鷲織絨氈 緑猩々緋縫	毛織天鷲織絨氈 緑猩々緋縫
	胴懸	唐花せん、緑猩々緋 形付猩々緋	三方とも綴氈	毛織り天鷲織花氈 緑猩々緋蛮画縫		毛織り天鷲織花氈 緑猩々緋蛮画縫	毛織天鷲織絨氈 緑猩々緋縫人物有
	後懸						
	見送	茶地龍紋糸そ錦 緑黒ひろうど	①唐縫唐獅子。獅子吼 三字金糸。②鳥づくし 惣ぬひ紅にしき、緑 付。③茶地にしき木瓜 龍黒天鷲絨へりつき。	漢縫花鳥 緑猩々緋雲鶴岩頭之縫		漢縫花鳥 緑猩々緋雲鶴岩頭之縫	漢縫花鳥 辺り猩々緋雲鶴岩頭之 縫
	天井幕						
	網隠し				網かくし		
	染織品その他						
金具	金具						
ほか	真松						
	金幣	金幣四本					
	欄縁						
	屋根						

天明2年(1782)
山新調、後屋台を付けて
巡行
[文献8]

天明8年(1788)
天明の大火で罹災 以
後昇山にて巡行
[文献16]

寛政10年(1798)
曳山に復する。屋根形
は天明2年の形式を踏襲
[文献13]

凡例

- 一、[]内、資料番号は、文献史料集「No.」欄に対応する。
- 一、〈三条衣棚（番号）〉は、京都府立京都学・歴史館所蔵「三条衣棚文書」（館古531）とその番号を示す。
- 一、本表は京都市文化財保護課 山下絵美が作成した。

【文献15】 享和3年(1803) 「山飾附之事」	「祇園会入払帳」 (三条衣棚8116) のうち 文化9年(1812)	【文献16】 文化11年(1814) 『増補祇園御霊会 細記 参』	【文献17】 文政元年(1818) 『祇園会山鉾装鈔』 ※点線下段は宵飾	【文献23・24】 天保3年(1832) 「鷹匠人形 他一式覚」	【文献26】 年未詳 「鷹山道具類 預り覚帳」	【文献25】 文化6年(1809) 以降 「祇園会神事 当家式目」
猩々緋雲鳳王縫		猩々緋雲鳳凰縫	猩々緋雲鳳皇縫	猩々緋雲ニ鳳凰縫	跡屋台:金廻龍 猩々緋鳳王	猩々緋鳳凰 藤之棚 1 真向龍 1
白地金更紗						
紺地唐松流龍一華錦		地をり金地雲ニ麒麟縫	地織雲麒麟 ----- 金地	金地麒麟錦		
菊模様唐織		紺地錦模様 唐松龍浪等	紺地錦模様 唐松龍浪 ----- 猩々緋更紗形尺ク唐花 縫	猩々緋唐花縫	跡屋台:真向獅子雨具 表屋台:藤棚 金地菊 白地大内桐 紺地龍 金襴帯刀	金地麒麟 4 猩々緋縫 4 白地大内桐 4 紺地龍 1 (天保2年売払 出入帳ニ入有之) 唐織菊 1
白地大内桐金襴		金地菊模様	金地菊 ----- 白地金襴	白地大内桐唐草金乱		
			赤角房		花色総角 後屋台天水引総角 3	浅黄総角 金糸総角 浅黄総角 8 見送大房 4
				毛氈草花模様		
毛織天鷲氈 緑猩々緋人物縫		四方とも毛氈 緑猩々緋紺糸異国人縫	四方とも毛織通 緑猩々緋、紺花色糸 異国人人物縫、唐草蔓	毛氈蜀江形	常懸さらさ 1	新毛氈 2
	花色とんす			毛氈蜀江形	獅子吼 1	獅子吼 1
漢縫花鳥 緑猩々緋雲鶴岩浪縫		花鳥唐縫 緑猩々緋	花鳥唐縫 緑猩々緋	花鳥縫結	漢縫 1 獅子 1	横縫花鳥 1 獅子 1 (房共)
		赤地錦	赤地錦	緋羅背板	跡屋台:扇ノ錦 丸龍	猩々緋 1
					緋金中 2	猩々緋(紋共) 猩々緋 2 瓜 ト巴紋 2
					見送赤繩 4 猩々緋真木巻 白木綿左り巻	木綿日覆 猩々緋柱巻 花色木綿幕
			鷹(赤総をつかみ翔る 形)	四方角留:鷹 紅房付 胴幕角留:蝙蝠 浅黄房 付	金幣頭金物 4 釘隠し 8	金幣之頭金物 4
		白幣付、枝に雉一羽 網隠しあり	白幣付、枝に雉一羽 網隠し			松巻白木綿
		金幣四本	金幣四本	金幣 紅房付	金幣留メ紐 4 金幣紅大総角	金幣萌黄真田間紐 2大 1箱 小1箱
				黒塗無地		
		黒塗りかなもの有	黒塗減金金物 金箔置前後草木花極彩 色 屋根裏垂木間金箔置 源草画	惣黒塗破風裏宗金前後 草花粉色軒裏宗無地金 宗金物減金		

文化7年(1810)
前後家台の形式を廃し、大屋根に
[文献23. 24]

文政3年(1820) 屋根塗・金物・二番水引・欄縁・総角・房掛を取り替える [文献18. 19]

文政10年(1827) 休み山に